

生物多様性に関する活動事例集 ＜2016年度版＞

生物多様性に関するアンケート
－自然の恵みと事業活動の関係調査－

2017年2月

一般社団法人 日本経済団体連合会
経団連自然保護協議会
生物多様性民間参画パートナーシップ

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
1-1	目標1	(株)八十二銀行	当行は環境方針(環境理念・行動指針)を定め、環境保全活動をCSRの根幹と位置づけ、積極的かつ継続的な環境改善を活動通じて持続可能な地域社会の形成に寄与するとしています。行動指針の5項に、「自然の恵みである生物多様性の重要性を認識し、その保全に努めます」としています。	「2016八十二銀行の現況」(CSRレポート) P41、P42 http://www.82bank.co.jp/ct/other000012800/ki_pdf_2016genkyo.pdf
1-1	目標1	JXエネルギー株式会社	「生物多様性」の企業方針への盛り込み	http://www.noejx-group.co.jp/csr/environment/managament/index.html http://www.noejx-group.co.jp/csr/environment/biodiversity/index.html
1-1	目標1	アジア航測株式会社	【エコファーストの約束の達成】アジア航測は、航空測量業界のトップ企業として、環境省よりエコファースト企業の認定を受けています。当社が掲げた「エコファーストの約束」を果たすため、低炭素社会の実現への貢献、自然共生型社会の実現への貢献、自然災害発生時における情報提供等の取組みを進めています。	http://www.ajiko.co.jp/csr/ecofirst.html CSRレポート2016p3
1-1	目標1	エイピーピー・ジャパン株式会社	2014年9月にニューヨークで開催された「国連気候サミット」に参加し、唯一の製紙会社として「森林に関するニューヨーク宣言」に署名しました。さらにCOP21、ボン・チャレンジ、IUCNの活動等に参加するとともにSDGsの指針に沿った取組みを行っています。	2015年CSR報告書
1-1	目標1	キリンホールディングス株式会社	【生物資源に関するビジョンの設定】2050年に向けた「キリングループ長期環境ビジョン」の中で「生物資源」を4つの重要テーマの一つに選定。2050年までに生物資源を持続可能な形で使用していることを到達目標に掲げ、ガイドラインや行動目標を設定して活動を推進している。	http://www.kirinholding.co.jp/csv/env/bioresource/
1-1	目標1	ユニ・チャーム(株)	JBIB正会員となり、生物多様性保護の為にguideline作成に参画してNGOや行政に積極的に関与をした。	同上
1-1	目標1	第一三共株式会社	生物多様性への取り組み 環境経営基本方針と第3 期中期環境経営方針において、生物多様性と生態系サービスに配慮した事業活動を行う旨を明記しています。これらの方針などに基づき、「生物多様性基本方針・行動指針」を策定しています。	http://www.daiichisankyo.co.jp/corporate/csr/environment/biodiversity/index.html バリューレポート2016
1-1	目標1	日本水産株式会社	環境憲章行動指針に「生物多様性保全」を加えている。	http://www.nissui.co.jp/social/environment/05.html
1-1	目標1	富士フイルム株式会社	富士フイルムグループは、創業以来「環境配慮・環境保全は企業活動の根幹を成す」という考えに基づいて様々な環境保全活動に取り組んできた。その一環として、2009年6月に「生物多様性の保全」に関するグループ共通の取り組み方針を明確化し、富士フイルムグループ「生物多様性の保全に関する基本認識と行動指針」を制定し、生態系サービスを将来に向けて存続させるため、社内外での取り組みを進めている。	http://www.fujifilmholdings.com/ja/sustainability/vision/creature.html
1-1	目標14	東レ株式会社	①東レでは、従来より地域の植生を考慮した「鎮守の森方式」にて工場緑化活動を全社的に推進している。 ②2012年に従来の緑化方針を発展的に改訂し、「東レグループ緑化基本方針」として制定した。	東レグループCSRレポート2016(P75)で公開
1-1	目標19	株式会社セレスポ	イベント分野においてサステナビリティの推進に取り組んでおり、イベントの目的や特性に応じて環境や生物多様性への配慮に取り組んでいる。業界内外に広く普及していくために、イギリスに本部のあるサステナビリティ教育のNPO団体Positive Impactと連携し、教育プログラムの開発、セミナーの開催を行っている。	
1-1	目標4	丸紅株式会社	天然木を伐採することの無い、環境に配慮した持続可能な植林事業を行っている。	http://www.marubeni.co.jp/csr/csv/afforestation/
1-1	目標4	住友金属鉱山株式会社	当社は2020年のありたい姿を実現するための具体的な目標の一つに生物多様性保全の推進を掲げています。そして生物多様性へのアプローチは、地球温暖化対策、環境負荷の低減および生態系の保全の三つの観点から取り組んでいます。	統合報告書2016 p.72
1-1	目標4	住友林業(株)	2012年に「生物多様性宣言」、「生物多様性行動指針」、「生物多様性長期目標」を制定した(「宣言」「指針」は現在環境方針に統合)。長期目標は、「愛知目標」を網羅的に検討し、対応する長期目標を事業レベルで具体的に落とし込んでいく。	http://sfc.jp/information/society/environment/performance/preservation/preservation01.html
1-1	目標5	JFEホールディングス(株)	「鉄鋼スラグで海洋環境を再生」 粒度調整した製鋼スラグ「マリンストーン®」は、閉鎖性海域のヘドロ状底質からの硫化水素発生を抑制する機能があり、生物が生息できる環境に改善できます。海域環境改善効果が評価され、第12回エコプロダクツ大賞の農林水産大臣賞(大賞)を広島大学と連盟で受賞しました。福山港港湾海域環境創造工事(内港地区)で採用され、38,000tのマリンストーンを施工しました。	http://www.jfe-holdings.co.jp/environment/report.html CSR報告書2016P24
1-1	目標5	イオン株式会社	植樹活動:1991年より新しい店舗がオープンする際に、店舗が地域に根ざし、コミュニティの場となること、緑を育む心が地域の人々に広がることを願い、お客さまとともに店舗の敷地内に植樹する「イオン ふるさとの森づくり」を実施。又、(公財)イオン環境財団は地球市民として、さまざまな国や地域で、政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることを目的とした植樹活動を実施。東日本大震災で失われた海外林再生の植樹も実施しています。	http://www.aeon.info/environment/shokuju/
1-1	目標5	高砂熱学工業株式会社	「高砂熱学の森」の開設により、環境保全に寄与する重要性の認識を深める。	2016年度CSR報告書 P.17、18
1-1	目標6	株式会社北洋銀行	生物多様性保全を目的とした「ほっくー基金」を平成22年に設立し、官民連携からなる「ほっくー基金選定協議会」で選定のうえ、北海道の希少動植物保護に取り組む団体等累計33先(平成28年9月末時点)に助成を行いました。 「ほっくー基金」の主な原資として、「ほっくー定期預金」を全店でお取り扱いしており、同預金の3月末時点の残高0.01%相当額と、満期案内不発行により削減できる郵送料相当額を「ほっくー基金」に拠出しています。	http://www.hokuyobank.co.jp/about/csr/pdf/2016/csr-report2016.pdf CSRレポート2016 P.15-18
1-1	目標7	野村ホールディングス株式会社	●アグリビジネス グループ会社である野村アグリプランニング & アドバイザーを中心に、地域に密着したアグリの産業化をサポート。千葉県と北海道の実証農場で得られたノウハウを活用し、企業の新規農業参入へのサポート、農林水産省の支援を受けた全国での六次産業化推進セミナーを開催。	http://www.nomuraholdings.com/jp/csr/sustainable/services.html

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
1-1	目標8	大成建設株式会社	日建連および会員企業の環境に対する取組み指針「建設業の環境自主行動計画」の「第6版」を策定するにあたり、当社社員がリーダーシップを取り、社会情勢の変化やこれまでの環境への取組みの進展状況を踏まえ、より社会的課題に則した側面から行動計画の全体構成や位置づけを一新しました。	http://www.nikkenren.com/ 日本建設業連合会
1-2	目標1	ウシオ電機株式会社	本年度からの第五期環境行動計画を通じてグループ会社に対する生物多様性尊重の啓発に努める目標を設定した	http://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/manage/plan.html (年内中更新予定)
1-2	目標1	ライオン株式会社	当社は、「2020年までに全事業所で生物多様性保全活動の実施」を中期環境目標に掲げ、現在8事業所(工場:7、オフィス:1)において各種生物多様性保全活動を実施している。具体的には、①事業所内のビオトープにおける希少生物種の保護活動や生態系ネットワーク構築活動、②NPOと連携した希少生物の保護活動や外来種の駆除活動、③各活動を活用した、子どもたちを対象とした環境教育や見学会開催等を実施している。	http://www.lion.co.jp/ja/csr/biodiversity/activity/
1-2	目標1	株式会社 熊谷組	2010年3月 生物多様性保全の取組み方針を策定(2016年4月 改訂)	会社HP
1-2	目標1	株式会社 熊谷組	当社が進める自然環境の保全、再生、創出の取組みのひとつである「ホテルの棲める環境づくり(ホテルビオトープ技術)」が、「国連生物多様性の10年日本委員会」が推奨する連携事業に認定。 (建設業では初めての認定)	CSR報告書2014p25
1-2	目標1	株式会社 熊谷組	当社施工の大山ダム(発注者:独立行政法人水資源機構、大分県日田市)の「ホテルの棲める環境づくり(ホテルビオトープ技術)」について、生物多様性の保全や向上に貢献する取組みを定量評価するJHEP認証を取得。	CSR報告書2015p33
1-2	目標1	株式会社カネカ	2010年度に生物多様性に関する活動方針を制定し、企業活動が生態系におよぼす影響に注目して、環境への負荷を軽減する技術や素材、製品を提供するとともに生産における環境負荷の軽減に努めています。また、社会貢献活動の一環としても、社外の多様な生物多様性活動との連携・協力を行っています。	http://www.kaneka.co.jp/csr/environment/07/ CSRLレポートWEB版 生物多様性への取り組み
1-2	目標1	株式会社三菱ケミカルホールディングス	2016年～2020年の中期経営計画の優先経営課題(マテリアリティ)のひとつに生物多様性保全を選定、情報開示。自社グループ生物多様性保全の方針および行動指針の下、活動実施。	http://www.mitsubishiche.com-hd.co.jp/kaiteki_management/materiality_assessment/ 三菱ケミカルホールディングスHP:マテリアリティ・アセスメント http://www.mitsubishiche.com-hd.co.jp/sustainability/activities/environment/pdf/biodiversity.pdf 三菱ケミカルホールディングスグループ生物多様性保全方針
1-2	目標1	東レ株式会社	2010年12月に東レグループ生物多様性基本方針を制定し、全社員へ周知、各社員が生物多様性の価値を理解し、東レグループとしての行動を認識している。	http://www.toray.co.jp/csr/environment/safety/saf_010.html
1-2	目標12	ライオン株式会社	ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所では、従業員が手作りでビオトープを造成し、2014年香川県絶滅危惧Ⅱ類指定「マイコアカネ」の誘致に成功。翌年には、ふ化と未熟成虫の生息を観察し、生態系を確立した。また、自然の大切さや素晴らしさを体感してもらう為に、近隣の幼稚園児、小学生を招いて自然観察会を行う他、小学校と協働で総合的な学習(マイコアカネを呼ぼう)を推進し、講師の派遣とビオトープを学習の場として提供している。	http://www.lion.co.jp/ja/csr/biodiversity/report/category/202
1-2	目標4	サントリーホールディングス株式会社	サントリーグループは、自然の恵みに支えられている企業の責務として、持続可能な地球環境を次代へ引き渡すことを目的に、『環境ビジョン2050』を策定するとともに「2020年目標」を設定し、生物多様性の保全を含む自然環境保全・再生の取組みをさらに積極的に展開していきます。	http://www.suntory.co.jp/eco/teigen/vision/
1-2	目標4	株式会社大林組	当社は、持続可能な社会の実現をめざして、中長期環境ビジョン「Obayashi Green Vision 2050」を策定し、事業活動を通じて地球環境の課題解決に取り組んでいます。その中で2050年のあるべき社会像の一つとして「自然共生社会」を掲げ、「生物多様性が適切に保たれ、自然の恵みを将来にわたって享受できる」社会の実現を目指しています。2015年度は取組として開発時の影響評価技術を案件検討時に活用しました。	コーポレートレポート 2016 P.43 http://www.obayashi.co.jp/uploads/File/ir/report/2016/ir2016.pdf
1-2	目標4	三菱商事株式会社	取締役会や社長室会において審議される全ての案件については、投融資委員会にCSR担当部局がメンバーとして参加することで、生物多様性も含めた環境に与える影響も踏まえた意思決定が行われるような審査体制が整備されている。	三菱商事 統合報告書2016 P43
1-2	目標4	味の素株式会社	<生物多様性・生態系サービス配慮の経営ビジョン、リーダーシップ> ・「味の素グループ 生物多様性に関する考え方と行動指針」 ・企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)の副会長企業として産業界リーダーシップ ・国連生物多様性条約COP Business and Biodiversity Forum (B&BF)でのプレゼン。 Cancun Business and Biodiversity Pledgeへの署名。	http://www.ajinomoto.com/jp/activity/csr/pdf/2016/policy.pdf http://www.jbib.org/ https://www.cbd.int/business/meetings-events/2016.shtml http://www.aseanbiodiversity.org/
2-1	目標1	株式会社 安藤・間	「どんぐりプロジェクト」 いわき市の震災復旧のための開発事業では、伐採された里山の樹木のどんぐりを、地域の子どもたちに預けて苗木を育成してもらい、その苗木を完成後の防災緑地に新たに植栽して、地域の里山を再生しようという取り組みを行なっています。子どもたちが大人になったとき、自分たちがよみがえらせた里山の樹木が茂る防災緑地に、「ふるさと」を感じられるようにとの思いを込めています。	http://www.ad-hzm.co.jp/csr/csr_2016.html 安藤ハザマCSR報告書 2016 p.30
2-1	目標10	中日本高速道路株式会社	【地球温暖化の抑制】当社では、高速道路ネットワークやETCレーンの整備、付加車線の設置などによる渋滞緩和により、自動車交通に起因するCO2排出量を削減しています。また、LEDなどの高効率照明灯具の積極的な採用による電力消費量の抑制や、太陽光、水力発電などの再生可能エネルギーの利用により、地球温暖化の防止に貢献しています。	https://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/csr_download/ NEXCO中日本レポート2016 P44

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
2-1	目標11	日本電信電話株式会社	NTT都市開発他が構築した品川シーズンテラスは、武蔵野台地部と東京湾臨海部との境界部に立地しており、敷地内に整備した3.5haの広大な緑地は、両方の自然生態系の中継点としての機能が期待されている。この点が評価され、公益財団法人都市緑化機構による「社会・環境貢献緑地評価システム(SEGES)」において「緑の保全・創出により社会・環境に貢献する開発事業(都市開発版SEGES)」として認定された。	http://www.ntt.co.jp/csr/report.html サステナビリティレポート2016,P084
2-1	目標12	(株)極洋	持続可能なクロマグロの養殖を目指しています	弊社「社会・環境報告書 2016」(11頁/全19頁中) http://www.kyokuyo.co.jp/environment/report/
2-1	目標12	(株)東芝	英国のスプリングフィールドズフュエル社では、国際NGOである「The Wildlife Trusts」が生物多様性に配慮した事業所に対して認証を与える「生物多様性ベンチマーク」を2006年に取得しました。敷地内の池では、欧州保護生物種に指定されているホクオウクシイモリを含む2種類のイモリが見つかり、生き物に配慮した池の整備を進めています。	http://www.toshiba.co.jp/env/jp/vision/biodiversity_j.htm#anc_01
2-1	目標12	富士通株式会社	シマフクロウの音声認識プロジェクト：絶滅危惧種であるシマフクロウの生息域調査のため、公益財団法人日本野鳥の会に音声認識ソフトウェアを提供しています。鳴き声を自動抽出できるようになり、解析時間は大幅に削減され、効率的な調査に役立っています。	http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/activities/case-studies/technology/owl/index.html
2-1	目標12	味の素株式会社	<地域生態系の回復向上> ・「味の素バードサンクチュアリin四日市」	「味の素グループ サステナビリティデータブック2016」 http://www.ajinomoto.com/jp/activity/csr/pdf/2016/kankyoku.pdf
2-1	目標14	ソニー(株)	熊本の豊富な地下水を使用しているソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)熊本テクノロジーセンターでは「使った水はきちんと戻そう」をスローガンに、地下水の還元を目指す「地下水涵養」を実施しています。これは、NPO団体「環境ネットワークくまもと」、菊陽町および大津町の農家の皆様「水土里ネット」など多くの方々と協力して、2003年に始めて毎年継続しています。	https://www.sony-semiconductor.co.jp/kankyoku/kanyoku_kanyou http://www.sony.co.jp/SonyInfo/csr_report/environment/site/biodiversity/kumamoto.html
2-1	目標20	キヤノン株式会社	2015年にキヤノングループに加わったアクシス社(スウェーデン)のネットワークカメラは、世界各地で自然保護プログラムや森林火災の監視などに活用されています。例えば、米国バージニア州の野生動物リハビリテーション病院のワイルドライフセンターでは、ネットワークカメラを使って負傷した野鳥の観察や診断を行っています。また、ロシアのノヴゴロド地方では、ネットワークカメラを森林火災の監視に活用し、火災の初期探知に有効との評価を得ています。	http://web.canon.jp/csr/report/pdf/canon-sus-2016-j.pdf キヤノンサステナビリティレポート2016 p64
2-1	目標20	ナブテスコ株式会社	タイでのマングローブ植樹	https://www.nabtesco.com/library/annual_report/oir2015_12/fundamental/society/index.html
2-1	目標4	王子ホールディングス	国内に19万ha、海外に28万haの森林を所有・管理し、持続可能な森林経営を展開、今後も長期に亘り管理して行く。	”王子グループレポート2016”：P40～41
2-1	目標4	花王株式会社	紙・パルプについては、2020年までに再生紙または持続可能性に配慮したもののみ購入することを目指しており、2015年末時点で購入量の96%に達しています。また、2015年、日本で初めてFSC®認証を受けた段ボールを導入し、運用を開始しました。2016年末には全体の約50%に認証段ボールを採用予定です。	http://www.kao.com/jp/corp_news/2016/20160309_001.html
2-1	目標4	三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	生物多様性問題に対する取組を経営課題として推進。①企業方針として生物多様性行動保全指針を制定 ②2008年のCOP9においてドイツ政府提唱の「ビジネスと生物多様性イニシアティブ」に賛同し、リーダーシップ宣言へ署名、活動を推進 ③2012年のRio+20にて「自然資本宣言」に署名 ④エコプロダクツ展(2007年より生物多様性をテーマに継続出展)など、啓発活動に努める。	CSRLレポート2015 (p.10-24) http://smth.jp/csr/report/2015/full/all.pdf
2-1	目標5	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	環境保護の一環としてeco保険証券・Web約款を導入し、「保険証券」「ご契約のしおり(普通保険約款・特約)」等の作成・発行にかかる紙資源やエネルギーの削減を推進。加えて、お客様のeco保険証券・Web約款の選択件数に応じて発展途上国の森林保全等、環境保護につながる寄付活動を実施。	http://www.aioinissaydowa.co.jp/specon/
2-1	目標5	花王株式会社	花王は「原材料調達調達ガイドライン」を定め、持続可能な原材料の調達に取り組んでおり、また基本原料であるパーム油や紙・パルプの調達において、原産地の森林破壊ゼロを支持しています。	http://www.kao.com/jp/corp_csr/procurement05.html
2-1	目標5	日本水産株式会社	海外の関係会社において、水産物を取り扱う会社は持続可能な漁業の商品(MSC商品)の取扱いを行っている。	
2-1	目標9	パナソニック株式会社	商品分野の取り組み： 船向けパラスト水処理装置	サステナビリティデータブック2016 P62 http://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/downloads.html
3-1	目標1	ダイハツ工業株式会社	滋賀県立琵琶湖博物館事業支援 琵琶湖博物館は、琵琶湖の自然研究、地域の環境学習の場として青少年はじめ多くの方が利用されています。 2015年から大規模リニューアル事業を実施。当社は事業の趣旨に賛同し、リニューアルサポーターとして また企業会員として琵琶湖博物館を支援しています。	
3-1	目標1	横浜ゴム株式会社	生物多様性保全活動を国内7事業所及び海外4事業所において実施している。事業所を取り巻く周辺環境を把握した後、事業所のある周辺地域で河川の水質や水生生物・野鳥・植物などの出現生物モニタリングを行い事業活動の影響評価を行っている。得られたデータは住民懇談会などで公表している。また平塚製造所では行政・大学・NPOなどを招き生物多様性パネルディスカッションをこれまで3回にわたり開催している。	http://www.yokohama.com/csr/report/environment/environment03/

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標1	三菱電機株式会社	「事業所の生物多様性保全」:2015年4月から、国内の当社全生産拠点で、事業所構内及び周辺に生息する生物種を調査し、希少種、固有種の保護育成、外来種の適正管理を進めています。生物多様性「主流化」のために、全社員が自らの職場で生息地の質的向上を図り、生きものとの関わりを再構築します。	http://www.mitsubishielctric.co.jp/corporate/environment/research/index.html http://www.mitsubishielctric.com/company/environment/policy/biodiversity/research/index.html
3-1	目標1	東レ株式会社	東レグループの事業活動と生物多様性との関係性マップを作成し、生物多様性への影響の把握と、生物多様性保全に貢献する製品を特定した。	東レグループCSRレポート2016(P75)で公開
3-1	目標1	日本郵船株式会社	当社は船の調達から処分までのライフサイクル全工程が生物多様性に影響を与える可能性があることを認識し、事業活動と生物多様性の関係を示すマップを作成しています。これにより船舶の調達・運航・解体の各段階での生物多様性への影響を把握しています。	NYKレポート2016 P. 82 http://www.nyk.com/ir/library/nyk/pdf/2016_nykreport_all.pdf
3-1	目標11	清水建設株式会社	岡山県瀬戸内市錦海塩田跡地の瀬戸内Kirei太陽光発電所建設プロジェクトでは、汽水域特有の生態系を有する環境の中、敷地490haのうち発電用地は265ha、残りは公有水面とヨシ原からなる保全エリアに設定。そのうち16haの乾燥化が進んできた既存湿地を、当社開発のエコロジカル・ランドスケープ手法を活用し、かつての湿地に復元するだけでなく、これまで以上の環境を創出することを旨とした生物多様性空間「錦海ハビタット」として創出した。	http://www.shimz.co.jp/csr/environment/report/pdf/report2016_p34-h4.pdf Shimizu Corporate Report2016 p50-51
3-1	目標11	凸版印刷株式会社	2014年3月に竣工した群馬センター工場の緑化計画は、土地開発における生物多様性配慮の社内規定により、第三者評価を実施し、都市緑化機構が認定する社会貢献緑地「都市開発版SEGES」の認定を受けました。	http://seges.jp/pdf_n/SEGES_about-tsukuru.pdf
3-1	目標12	キリンホールディングス株式会社	【ビオトープ】キリンビール横浜工場では2011年4月に策定された生物多様性横浜行動計画「ヨコハマプラン」に賛同した取り組みとして地域のNPO法人と連携しビオトープを整備。絶滅が危惧される地域在来のメダカや、ホトケドジョウを生息域外保全している。キリンビール神戸工場でも、場内のビオトープにおいて地域の研究機関と協働し、絶滅が危惧されるカワバタモロコの定着に成功している。これらは地域のこどもたちの環境教育プログラムにも活用されている。	http://www.kirinholding.com/csv/env/bioresourcel/stakeholder.html
3-1	目標12	パナホーム株式会社	本社ビルに隣接する緑地ゾーン『つながりなひろば』において、地域の生態系のネットワークの保全や、絶滅危惧種の保全を行っている。(ex ミナメダカ:H25.4月 30匹放出→H27.4月 推定5000匹)	http://www.panahome.jp/company/environment/social/index.html#plaza 2016年環境報告書p6
3-1	目標12	株式会社大林組	当社が建設している長野県の治水用ダムである「浅川ダム」では、ダムの建設工事から流域の生物を保護するため、国や県が絶滅の恐れがあると指定している生物等を、地元のNPOなどの協力を得ながら移植しました。移植にあたっては、工事の影響が考えられる地域に生息する貴重生物を事前に調査。事前調査で確認されたイワナやサワガニ、ゲンジボタルなどは、最大限の保護対策を図りました。	コーポレートレポート2016 P.48 http://www.obayashi.co.jp/uploads/File/ir/report/2016/ir2016.pdf
3-1	目標12	株式会社大林組	当社が建設を進めているニュージーランド最大規模の高速道路建設プロジェクト「ウォータービューコネクショントンネルおよびグレートノースロードインターチェンジ建設工事」では、地元の市議会や住民の合意のもと、3か所で小川を移設し、1,000匹を超えるウナギの捕獲再放流、固有種の生息保護区域の整備・拡張のほか、希少な植物の移植を行いました。この取組は、環境保護先進国である同国において、高い評価を受けています。	コーポレートレポート2016 P.48 http://www.obayashi.co.jp/uploads/File/ir/report/2016/ir2016.pdf
3-1	目標12	㈱日建設計	設計事務所として、クライアントの理解、要望に応じて生物多様性に対応した建物、植栽等を実現している。代表的な事例として三井住友海上火災保険株式会社本社があげられる。	http://www.ms-ins.com/company/csr/environment/afforestation/
3-1	目標12	戸田建設株式会社	トンネル工事における猛禽類の保全事例	http://www.toda.co.jp/solution/ecology/symbiosis/index.html
3-1	目標12	戸田建設株式会社	トンネル工事におけるホタルの保全事例	http://www.toda.co.jp/solution/ecology/symbiosis/index.html
3-1	目標12	中国電力株式会社	発電所構内で繁殖している「ハヤブサ」の親子を1992年に発見し、野鳥の専門家の指導をいただきながら煙突の中段に巣箱を2000年に設置。繁殖期には必修工事を避けるなどできるだけ刺激を与えないよう配慮したところ、その後、ほぼ毎年2~3羽のヒナが育っている。	http://www.energia.co.jp/corp/active/csr/kankyou/index.html 2016エネルギーグループ環境報告書p36
3-1	目標12	中国電力株式会社	発電所における防波護岸前面の海域に人工リーフ(浅瀬)を設置することにより、水深が浅くなったことで、海底面に太陽光が届きやすくなり、クロメなどの海藻草類や魚介類の良好な繁殖・生育の場となっている。海藻草類の生息状況について、適宜調査を実施し、順調な生息を確認している。	http://www.energia.co.jp/corp/active/csr/kankyou/index.html 2016エネルギーグループ環境報告書p36
3-1	目標12	中日本高速道路株式会社	【地域環境への配慮】当社では、高速道路の建設における動植物の生息・生育基盤の消失や移動経路の分断などを最小限におさえるため、エコロード(自然環境に配慮した道)づくりに取り組んでいます。希少な動植物の移植や地域性苗木(地域に自生している樹木の種子から育てた苗木)による緑化など、地域環境へ配慮した高速道路事業を展開しています。	https://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/csr_download/NEXCO中日本レポート2016 P46
3-1	目標12	日本ケミコン株式会社	山形県の事業所にて県の保護蝶であるチョウセンアカシジミが幼虫時代に食物とする「デワトネリコの木」の植樹に力を入れ保護活動を行っている。	ケミコンレポートp36(統合報告書:2015年11月発行)
3-1	目標12	日本精工株式会社	工場の敷地内に生息・生育している貴重な動植物(レッドデータリスト掲載種)について、保護しながら、毎年生息・生育状況のモニタリングを継続している。	2013年CSR報告書P.45
3-1	目標13	三井住友建設株式会社	第二東名高速道路 的場高架橋工事 本橋の架橋地点にホタルの生息地として有名な場川があり、ホタルの生育環境に影響を与えず、生物多様性を保全できるように、工事箇所を支保工を建て込む必要のないプレキャストセグメント張出し工法を採用。また、現場にホタルの産卵場としてビオトープを整備し、発注者、大学、地元自治会、NPO法人らとの協働により、ホタル鑑賞会や自然体験学習などの活動に取り組んだ。	http://www.smcon.co.jp/2011/0905970/

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標13	三井住友建設株式会社	京都第二外環状道路 西山トンネル工事 この工事場所付近には、「長岡京市ゲンジボタルを育てる会」がホタルの幼虫の餌となる「カワニナ」を毎年育てていた養殖池があり、当初計画では養殖池が無くなる予定であった。そのため、まず工事期間中の3年間ホタルの餌となるカワニナを移設、飼育。工事竣工後、ホタルを育てるための専用水路と養殖池を整備して長岡京市に贈呈、「ホタルの舞う里山」の復元へ取り組んだ。	http://www.smcon.co.jp/2013/10186571/
3-1	目標13	三井住友建設株式会社	当社が設計施工したマンション2件が、集合住宅初の「第2回いきもの共生事業所®」に認証された。一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)が作成した「いきもの共生事業所®推進ガイドライン」及び「土地利用通信簿®」を認証基準として、企業における生物多様性に配慮した緑地づくりや管理・利用などの取り組みを、一般社団法人 いきもの共生事業推進協議会(ABINC)が、第三者評価・認証するもの。	http://www.smcon.co.jp/csr/csr-environment/f/f-03-04/
3-1	目標14	いすゞ自動車株式会社	グループ会社のワーカム北海道(株)における、周辺河川の多様性を保護するための施設内の整備及び、施設内の生物多様性保護の取り組み	CSRレポート:環境パートP7 http://www.isuzu.co.jp/company/csr/report/pdf/eco.pdf
3-1	目標14	ウシオ電機株式会社	空間殺菌のニーズにおいて、新光源の活用により従来型のオゾン発生器より画期的なメリットが提供できる製品展開	http://www.ushio.co.jp/news/1002/2016-2016/500107.html
3-1	目標15	サッポロホールディングス	サッポロビールでは、ビオトープ園を有する静岡工場と北海道工場において、地域の小学生親子に同園を開放し、自然観察会などを実施しています。静岡工場では、地域の自然保護団体「やきつべの里フォーラム」方々、焼津水産高校の学生にご協力をいただき、2010年以降自然観察会を実施しています。北海道工場では、雪印種苗(株)の自然環境グループとともに、自然を体験するイベントを実施しています。	http://www.sapporoholdings.jp/csr/earth/nature_1.html
3-1	目標15	日本郵船株式会社	認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパンと協働し「紀州みなべのアカウミガメ調査」プログラムを立ち上げ、本年7月には当社グループ社員17人がボランティアとして参加しました。夜間に産卵のため上陸したアカウミガメの個体識別標識の確認や装着を手伝い、また測定器を使い甲羅の長さ・幅を計測しました。事業に密接な関わりがある海洋環境、生物多様性の保全活動を通じて、より豊かな海の実現に向けて貢献していきます。	NYK website ニュースリリース http://www.nyk.com/rel ease/4207/004400.html
3-1	目標18	第一三共株式会社	生物多様性指標の導入 第一三共国内グループの事業活動における全ての環境負荷について、いであ株式会社を通じて、NGOであるGlobal Footprint Networkの専門家と協業し、生物多様性に係る指標である「エコロジカル・フットプリント(EF)」を算定しました。責任ある企業活動の一環としてEFを活用し、生物多様性に配慮した活動を推進することで、愛知ターゲットの実現に協力していきます。	https://www.facebook.com/bd20maru/ にじゅうまるプロジェクト Facebook
3-1	目標19	KDDI株式会社	KDDIグループのKDDI研究所では、東京大学、九州工業大学、インド工科大学、WWFインディアと協働して、河川の棲息環境の変化により絶滅が危惧されているガンジスカワイルカの保護活動を行なっています。第25回地球環境大賞フジサンケイグループ賞を受賞しました。	http://media3.kddi.com/extlib/files/corporate/csr/csr_report/2016/pdf/report2016_09.pdf (上記URL:P18)
3-1	目標3	高砂熱学工業株式会社	「環境保全への貢献」 各分野における環境保全への取り組み状況と成果の認識。	2016年度CSR報告書 P. 35、36
3-1	目標4	JXエネルギー株式会社	環境負荷低減活動	http://www.noie.jx-group.co.jp/csr/environment/reduce/index.html
3-1	目標4	イオン株式会社	持続可能な調達: 持続可能な調達原則を策定し、具体的な取り組みの水産物調達方針、森林資源調達方針(紙・パルプ・木材)も策定。定期的なリスクアセスメントを行い、生物多様性に配慮した生物資源の認証(MSC、ASC、FSC®など)された商品を積極的に取り扱い、情報を発信。今後、他分野でも調達方針を策定する予定。	http://www.aeon.info/environment/procurement/general.html
3-1	目標4	エイピーピー・ジャパン株式会社	APPグループは2013年12月に「森林保護方針(FCP)」を発表し、自然林伐採の即時停止を誓約し実行に移しています。この誓約により自然林を破壊することなく、持続可能な植林により紙を生産しています。	2015年CSR報告書
3-1	目標4	キリンホールディングス株式会社	【スリランカの紅茶農園におけるレインフォレスト・アライアンス認証取得支援】キリングループは2013年から良質な茶葉の産地であるスリランカの紅茶農園の持続性向上に向けた取り組みを展開している。内容は自ら持続可能性を高める意欲がある農園を支援するためレインフォレスト・アライアンス認証の取得に向けたトレーニング費用の助成である。2015年までの累計で70以上の紅茶農園がトレーニングを開始し、30農園が認証を取得している。	http://www.kirinholding.s.co.jp/csv/env/bioresource/blacktea.html
3-1	目標4	キリンホールディングス株式会社	【紙・印刷物への対応】2013年に紙・印刷物についてWWFジャパンと協働で「行動計画」を設定。行動計画に沿った取り組みを進め、アンケートなどですべてのサプライヤーに持続性の確認を実施し、問題ないことを確認した。可能な場所では積極的にFSC認証紙を使用している。また、「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム」に設立メンバーの1社として参画。	http://www.kirinholding.s.co.jp/csv/env/bioresource/print.html
3-1	目標4	サントリーホールディングス株式会社	サントリーは「水のサステナビリティ」実現のために、「天然水の森」整備活動を基幹事業として取り組んでいます。2015年時点でおおよそ8,000ha超の面積で森林保全・再生活動を展開しており、2020年までに12,000haに拡大することを目標としています。これは国内自社工場で使用する地下水量を育む面積の2倍に相当します。	http://www.suntory.co.jp/eco/forest/
3-1	目標4	株式会社セブン&アイホールディングス	環境に配慮した持続可能な漁業を実践するアラスカの水産物の販売を行うとともに、その特長を社内外にお知らせすることに力を入れています。例えば、2016年度は、6月の環境月間に合わせて、セブン-イレブンの一部店舗で、アラスカ産鮭を使ったオリジナル商品セブンプレミアム「紅鮭の塩焼き」にPOPをつけて、「天然」「環境に配慮」などの特徴をPRしました。その他、アラスカシーフードを使った料理教室と販売会なども開催しています。	http://www.7andi.com/dbps_data/_template/_user/_SITE_/localhost/_res/csr/csrreaction/pdf/20160726_01.pdf CSRアクション http://www.7andi.com/dbps_data/_template/_user/_SITE_/localhost/_res/csr/pdf/2016_all.pdf CSRレポート2016 p77
3-1	目標4	三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	生物多様性問題の解決に貢献する金融商品・サービスを提供。①日本経団連自然保護基金の公益信託を受託・運営 ②トラスト地の買取に寄付する社会貢献寄付信託を販売 ③生態系への配慮や認証制度をとり入れた環境配慮型建築コンサルティング ④自然資本評価を組み入れた環境格付融資の提供 ⑤生物多様性に配慮する企業に投資する生物多様性SRIファンドの販売。	CSRレポート2015 (p.25-40) http://smth.jp/csr/report/2015/full/all.pdf

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標4	三井住友海上火災保険株式会社	駿河台ビルは、1984年のビル竣工時から、都心の本社ビルのあり方として、「周辺環境との調和」を理念の一つとし、既存樹の活用や高木の植栽に耐えられる構造を供えた屋上庭園の築造等を実施し、企業の緑化取組の先駆けとして、外部から高い評価を得ている。新館の緑地管理及び駿河台ビル改修に際し、新しい技術を用いた緑化や地域の生物多様性に配慮した緑化等、「緑のもつ力」を最大限表現することを目指した。	http://www.ms-ins.com/company/csr/environment/afforestation/
3-1	目標4	住友林業(株)	グループとして「調達方針」を設け、生物多様性にも配慮した調達を推進している。また、2020年度を目標達成年度としたCSR中期計画では、森林認証材、植林木、国産材など持続可能な木材の使用・取扱いを拡大する目標を設定して取り組んでいる。	http://sfc.jp/information/society/social/business_partner/forest.html
3-1	目標4	富士フイルム株式会社	富士フイルムグループは、「環境に関する社会課題の解決への貢献」を目指し、環境配慮設計に基づく「環境価値の高い製品・サービスの開発・普及」を進めている。2010年には「生物多様性方針」の具現化取組として、環境配慮設計に「生物多様性保全」の観点(*)を組み込み、設計段階より生物多様性も考慮し製品開発を進めている。 (*)「製造での生態系への影響回避・最小化」「生物資源の持続的供給に関するリスクマネジメント」の2点。	http://www.fujifilm.co.jp/corporate/environment/preservation/design/index.html
3-1	目標4	味の素株式会社	＜持続可能な原材料調達： 自社使用における取組み、社会連携の取組み＞ ・「サプライヤーCSRガイドライン」「味の素グループ 紙の環境配慮調達ガイドライン」 ・持続可能なパーム油に向けたオールジャパン推進体制のリーダーシップ ・持続可能な紙利用のためのコンソーシアム(CSPU)活動	「味の素グループ サステナビリティデータブック2016」 http://www.ajinomoto.com/jp/activity/csr/pdf/2016/kousei.pdf http://www.ajinomoto.com/jp/activity/csr/pdf/2016/f2.pdf http://www.ajinomoto.com/jp/activity/csr/pdf/2016/kankyoku.pdf
3-1	目標5	アズビル株式会社	アズビル京都株式会社での取組み アズビル京都は、山々に囲まれた地域に立地しています。まわりの自然とどのように共生していくか、認定NPO法人アースウォッチ・ジャパン、京都大学とともに、斜面の木々の調査や整備に取り組んでいます。	http://www.azbil.com/jp/csr/basic/environment/biodiversity.html
3-1	目標5	アンリツ株式会社	2015年3月に完成したグローバル本社棟の中庭及び外周については、立地の神奈川県厚木市の気候や土、本来の植生(潜在自然植生)を意識した植物を植えています。	2015 CSR報告p.69～70: http://dl.cdn-anritsu.com/ja-jp/about-anritsu/csr/2015/J-Anritsu2015PDF.pdf
3-1	目標5	アンリツ株式会社	2013年に竣工した郡山第二事業所では、生態系ネットワークを考慮した池を設置し、潜在自然植生を意識した植物の植樹を社員の手によって行いました。	2014 CSR報告p.47: http://dl.cdn-anritsu.com/ja-jp/about-anritsu/csr/2014/J-Anritsu2014PDF.pdf
3-1	目標5	カシオ計算機株式会社	環境や社会に配慮した紙の利用を社会全体で推進することを目的に立ち上げた「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム」に2014年6月に参画、取り組みを開始しました。	http://www.casio.co.jp/csr/env/biodiversity/
3-1	目標5	トヨタ自動車株式会社	トヨタやグループ各社がこれまで単独で地域ごとに工場の森づくり、周辺の環境保全などを進めてきました。こうしたさまざまな活動を「つなぐ」取り組みとして、2016年より、「Toyota Green Wave Project」を開始しました。	人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/environment/challenge6/
3-1	目標5	ミサワホーム株式会社	住宅用構造材の木材をPEFC認証を取得しているフィンランド工場より調達し、生物多様性の保全を目的とした、独自の「木材調達ガイドライン」を策定し、環境目標を策定。	www.misawa.co.jp/corporate/csr/2016年CSRレポートp54
3-1	目標5	ユニ・チャーム(株)	紙・Pulpの原材料である森林資源にHCVFを避けると共に、第三者認証材への切替えをSupplierと進めている。(日本の製品については90%程度切替えが終了している)FSC認証材への切替えを推進することで持続可能な原材料調達を推進した。	http://www.unicharm.co.jp/csr-eco/environment/biodiversity/index.html
3-1	目標5	株式会社大林組	自社ホームページ上の、つながるいきもの、及び、大林組の取り組み「生物多様性の保全」にて、事業活動や顧客の事業への協力などを通じた、当社の取り組みについて紹介しています。(トピックが多数あり、愛知目標5、7、10、12、行動指針3-1、5-2、5-3、6-2、7-2に該当)	http://www.obayashi.co.jp/eco/biodiversity/ 及び http://www.obayashi.co.jp/csr/environment/biodiversity#okuyama
3-1	目標5	協和発酵キリン株式会社	協和発酵キリングループでは、生態系を維持し、生物多様性を守る活動として2007年度からキリングループの水のめぐみを守る活動に取り組んでいます。2015年は、医薬品製造・発酵生産のそれぞれの主力工場である協和発酵キリン高崎工場、協和発酵キリン宇部工場、協和発酵バイオ山口事業所で、水源の森づくり活動として、下草刈りや植林、間伐作業を実施しました。	http://www.kyowa-kirin.co.jp/csr/environment/biodiversity/index.html
3-1	目標5	住友商事株式会社	主に中南米での生物多様性保全への貢献を目的に、渡り鳥に優しい「バードフレンドリー® コーヒー」の日本向け輸入を推進。認証によりトレーサビリティを確立し、消費者が認証農園を指名買ひできる仕組みを構築することで、シェードグロウン(木陰栽培)かつ有機栽培にてアグロフォレストリー(森林農業)を守り、渡り鳥を保護していく活動に貢献	(弊社HP参照) http://www.sumitomocorp.co.jp/business/article/id=245
3-1	目標5	住友商事株式会社	2015年9月に完工したマダガスカル共和国の鉱山開発事業「アンバトビー・プロジェクト」は、操業期間約30年間で年間生産量はニッケル6万トン、コバルト5,600トンの世界最大級。レアメタルの安定供給に寄与するだけでなく、生物多様性をはじめとする徹底した環境保全を通じて、現地社会の持続可能な発展に貢献。国連環境計画、国連人道問題調整事務所、GCIの共催で、2015年「Green Star Award」を受賞。	(弊社HP参照) http://www.sumitomocorp.co.jp/files/user/doc/csr/report/env2013j_12.pdf
3-1	目標5	積水化学工業株式会社	国内すべての生産事業所・研究所において緑地の質向上を目指しています。2015年度は、土地利用通信簿の評価点が全社平均で8.0ポイント上がりました(2013年度比)。	2016年CSRレポートp23
3-1	目標5	日本電信電話株式会社	NTTコミュニケーションズは、東京第6データセンターにおいて、東京都公園協会の「都市緑化基金」の助成のもと、地域密着の緑化活動を推進。データセンター敷地内の緑地を春夏秋冬、秋冬ゾーンに分けて植栽しており、来訪者は年間を通して花を鑑賞することが可能。また、風環境シミュレーションを実施し、風の影響を受ける南西角には常緑樹を配するなど、周辺環境と調和したデータセンターを追求。	http://www.ntt.co.jp/csr/pdf/sustainability_report_2015.pdf サステナビリティレポート2015,P051

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標5	富士ゼロックス株式会社	生物多様性保全に向けた用紙調達と供給の取組み 森林資源は事業の継続性に資するだけでなく、環境面や文化面においても地球の共有財産です。そのため、持続可能な森林管理を実践し、CSRに配慮した操業を行う用紙取引先からのみ調達することを基準として定め、書類調査、現地監査を行っています。その結果を踏まえ、環境担当役員を議長とする「責任ある用紙調達委員会」において基準に100%適合していることを定期的に確認しています。	2016年サステナビリティレポート P38 http://www.fujixerox.co.jp/company/public/sr2016/value03.html#sec1
3-1	目標6	JFEホールディングス(株)	「海洋生態系を守る」 JFEパラステース®は、船舶のパラステ水に存在する生物を除去・殺菌する水処理システムです。 「パラステ水管理条約」による船舶へのパラステ水処理装置の搭載要求に対応するシステムで、船体のバランスを取るために各地で注水・排水が繰り返されるパラステ水に含まれる海洋生物による生態系の乱れを防ぎ、海の生態系保護に貢献します。	http://www.jfe-holdings.co.jp/environment/report.html CSR報告書2016P24
3-1	目標6	新日鐵住金株式会社	当社は、近年環境問題として全国的に危惧されている“海の磯焼け”の改善に向けた「海の森づくり」も推進しています。“磯焼け”現象の原因のひとつに、森林の伐採や川の上流の開発などによって、河川を通じたコンブやワカメなど藻類の生育に必要な“鉄分”の供給が減少したことが挙げられています。この課題に対し、当社は2004年から鉄鋼スラグと廃木材由来の腐植物質を混合した鉄分供給ユニットを開発し、藻場の造成に取り組んでいます。	http://www.nssmc.com/csr/env/sea.html 環境・社会報告書2016 p28・29
3-1	目標6	積水化学工業株式会社	生産事業所から排出される排水の水生物への悪影響を未然に防止するため、2013年度よりWETを活用した調査を実施しています。2015年度は新たに4事業所で評価を自実施しました。この2年間の調査で公共用水域に排出される排水の95%の確認を終了しました。	2016年CSRレポートp22
3-1	目標6	東亜建設工業株式会社	水域の工事における生き物への影響の見える化「水中騒音振動監視システム」の開発、本システムは、工事に伴う水中の騒音や振動を自動計測・解析し、計測結果が管理基準値に近づくと、警報メールが担当者へ送付され、迅速に対応が可能となる。	2014年CSR報告書p28
3-1	目標6	東亜建設工業株式会社	生物多様性の保全として、基礎捨石施工部への海藻移植、神戸港六甲アイランド地区の現場海域の環境負荷低減を目的として海藻の移植を行い、藻場を造成した。 (460m ² × 4カ所 = 1840m ²)	2011年CSR報告書p30
3-1	目標7	(株)アレフ	生物多様性に配慮したお米の調達の取組み	
3-1	目標7	(株)アレフ	持続可能な仕入れ調達を維持するコーヒー	
3-1	目標7	(株)アレフ	資材の取組み (FSCミックス紙ナフキン、カーボンニュートラル原料を意図した作業用ゴム手袋、木製ディッシュ皿の素材選定およびリユース)	
3-1	目標7	スズキ(株)	「スズキ下川テストコースの森林」適正管理 スズキのテストコースは、森林が90%を占める北海道北部の下川町にあります。下川町は2003年に北海道で初めて国際的なFSC®森林管理認証を取得し、テストコース敷地に含まれる約303haの森林も2006年に追加認証されました。(FSC®C015134)	スズキ環境・社会レポート2015(森林保全活動) http://www.suzuki.co.jp/about/csr/report/2015/pdf/2015_envj_04_05.pdf
3-1	目標7	レンゴー株式会社	板紙用パルプ原材料の持続可能な森林資源からの調達とFSC認証パッケージ製品の供給体制の確立	環境・社会報告書2016 7-8頁参照
3-1	目標7	横浜ゴム株式会社	2014年から東南アジアの天然ゴム農園における生物多様性調査を実施してきた。また、タイの天然ゴム加工会社YTRC社ではタイ・ソクラ大学サラ教授と共に、天然ゴムを竹や果樹など他の10種類以上の樹木と混植して育てる「アグロフォレストリー農法」を通じ、健全な労働環境のもとで持続可能な天然ゴムの生産を行うCSR認定農園の育成プロジェクトをスタートさせた。	http://www.yrc.co.jp/csr/feature/topics5.html
3-1	目標7	王子ホールディングス	適切に管理された森林から伐採された木材を原料とすることが認証された、森林認証製品(印刷用紙、衛生紙等)を製造・販売している。	「王子グループレポート2016」; P42
3-1	目標7	(株)ニチレイ	水産・畜産事業を手掛ける当社グループでは、2006年からインドネシア・カリマンタンにおいて「生命(いのち)の森プロジェクト」を展開しています。これは、粗放養殖されたブラックタイガーエビの収益金の一部を使い、現地生産者と協働で実施しているマングローブ林の再生プロジェクトです。この活動にはWWFインドネシアもサポートを行っています。現在までにマングローブの植樹面積は東京ドーム65個分にのぼります。	http://www.nichireifresh.co.jp/environment/earth.html#earth_09 ニチレイフレッシュHP
3-1	目標7	(株)ニチレイ	国際的な環境保全団体であるWWFインドネシアとWWFジャパンは「北カリマンタン 海と森の保全プロジェクト」という活動を2015年7月から開始しています。同プロジェクトは、当社グループが進めている「生命(いのち)の森プロジェクト」を生産地周辺の環境保全を目指して拡大展開する取り組みであると考え、2016年10月よりニチレイグループとして「北カリマンタン 海と森の保全プロジェクト」を支援しています。	http://www.nichireifresh.co.jp/environment/earth.html#earth_09 ニチレイフレッシュHP
3-1	目標7	(株)ニチレイ	当社グループの水産事業では黄海海域で収穫された中国産あさりを取り扱っています。手掘りまたは低圧ポンプを使い収穫時のダメージを極力少なくしており、収穫後は鮮度を保ったままの加工を行っています。このあさりの調達先である泰宏食品(中国遼寧省)が実施する漁業改善プロジェクトを、WWF中国、WWFジャパン、当社グループの水産事業が支援することで、2016年11月より「黄海エコリージョン保全プロジェクト」を開始いたしました。	http://www.nichireifresh.co.jp/environment/earth.html#earth_09 ニチレイフレッシュHP
3-1	目標7	三井住友海上火災保険株式会社	インドネシア林業省と連携し、2005年からの6年間に、不法伐採により荒地化した野生動物保護林350haに約30万本を植林した。2011年からは、再生した森林を永続的に保護するために、地元住民の経済的自立を目的とした農業技術指導、小学校の先生への環境教育を行い、森林再生を可能にする持続可能な地域社会の形成を目指している。2016年度より第Ⅲ期を開始している。	http://www.ms-ins.com/company/csr/environment/rainforest/
3-1	目標7	三井物産株式会社	国内の社有林(4万4千ヘクタール。日本の民有林で4番目の広さ)全てを対象に、日本独自の森林認証SGEC(2006年認証)と国際森林認証FSC(2009年認証)を取得。FSC認証取得を機に、森林区分に生物多様性保護林を追加(全社有林面積の1割)し、生物多様性の保全により踏込んだ森林管理を推進。(愛知目標18にも該当) SGECは本年、FSCと並ぶ国際森林認証PEFCと相互承認され、二大森林認証を保持。	(三井物産WEBサイト) 三井物産の森 http://www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/environment/forest/index.html
3-1	目標7	住友林業(株)	社有林において「生物多様性保全に関する基本方針」を定め、全社有林の森林認証の取得、環境林の設定、生態系に大きな影響を及ぼす施業の禁止、生物多様性豊かな水辺を保全するマニュアルの制定、社有林に生息する動植物をまとめたレッドデータブック作成などを行っている。	http://sfc.jp/information/society/environment/performance/preservation/preservation02.html
3-1	目標7	清水建設株式会社	宗教法人生長の家「森の中のオフィス」では地元山梨県産材のFSC認証の地産地消木材を丸太にして4万本以上調達。流通から工事まで綿密に管理し、大規模木造建築物では日本初のFSCの全体プロジェクト認証を取得。	http://www.shimz.co.jp/csr/environment/report/report2013.html シミズCSR報告書2013 p33

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標7	東亜建設工業株式会社	生物多様性を簡易評価するツール「いきものプラス」、緑地計画のための植栽植物ガイドや植物と動物との関連データが含まれており、敷地情報や取組み内容を入力するだけで、生物多様性に関連した項目の点数を算出できる。このツールにより、生物多様性に配慮した建物周りの敷地計画の提案等が可能となった。	2015年CSR報告書p32
3-1	目標7	凸版印刷株式会社	2002年に、商業印刷分野で森林認証制度FSC COC認証を取得して以降、認証取得範囲の拡大に取り組んでいます。2016年10月時点では、商業印刷分野・紙製容器包装分野・証券/カード分野・木材加工製品で、FSC COC認証を15の事業所が取得しています。	TOPPAN CSRレポート2013 P31「持続可能な消費への貢献」
3-1	目標7	日本製粉株式会社	冷凍食品(パスタ)の紙トレーにPEFC認証紙を使用しています。2016年6月末現在で77アイテムになりました。	http://www.nippon.co.jp/csr/report/ 2015年CSR報告書Web版p10
3-1	目標9	ウシオ電機株式会社	海域を移動する商船のバラスト水による微生物等の移動による生態系への影響問題を解決する製品展開	http://www.ushio.co.jp/jp/csr/sr2016/feature/contribution.html
3-1	目標9	株式会社リコー	グローバルに生物多様性に配慮した事業所の敷地管理を行うという行動計画をたてて進めている。具体的には外来種駆除、低農薬など。	http://jp.ricoh.com/ecology/biodiversity/business_related/01_01.html
3-1	目標9	丸紅株式会社	コンパクトかつ低コストでオペレーションが可能なバラスト水処理装置の普及を通じて、海洋生態系保護の取組みに貢献している。	アニュアルレポート2016 P.45 http://www.marubeni.co.jp/ir/reports/annual_report/data/ar16jp_all.pdf
3-1	目標9	日本郵船株式会社	バラスト水管理条約(海洋環境に影響を及ぼす水生生物の越境移動を防止するための条約)の批准前から国土交通省の型式承認を受けたバラスト水処理システムの搭載を進めています(2016年3月末現在、計64隻に搭載完了)。また当社グループ会社が共同開発し、2014年に型式承認を国土交通省から取得したバラスト水処理装置「SKY-SYSTEM®」の試験搭載を当社自動車専用船に実施予定です。	NYKレポート2016 P. 83 http://www.nyk.com/ir/library/nyk/pdf/2016_nykreport_all.pdf
3-2	目標10	スズキ(株)	「先進環境技術」の追求 スズキは、環境保全に貢献する先進環境技術を「SUZUKI GREEN Technology」と位置付け、低燃費・低排出ガス・省資源などの小さなクルマに適した環境技術を追求しています。	スズキ環境・社会貢献ホームページ「SUZUKI GREEN Technology」 http://www.suzuki.co.jp/about/csr/technology/
3-2	目標10	ヤマトホールディングス株式会社	グループ会社である沖縄ヤマト運輸では、近年の海水温の上昇などで急速に姿を消しつつあるサンゴ礁を復活させようと、沖縄県内外の企業が立ち上げた「サンゴ再生プロジェクト」に参加。「チーム美らサンゴ」の一員として、サンゴの苗づくり・植え付け、外部へのPR活動などを支援しています。「チーム美らサンゴ」はこれらの活動が評価され、2015年12月、環境省主催の「第3回 グッドライフアワード」において環境大臣賞 最優秀賞を受賞しました。	http://www.yamato-hd.co.jp/csr/environment/protection.html ヤマトホールディングスHP CSRの取り組み ⇒環境⇒環境保全への貢献
3-2	目標14	セコム株式会社	「セコムの食」の取り組み 「セコムの食」の生産者の方々それぞれ生物多様性に配慮した取り組みを行っています。そうして生産された食品の販路を提供し、作り手の思いをお客様へ余すことなく伝えることが、セコムの食の役割で、作り手を支援していくことにつながります。	セコムWebサイト CSRの取り組み > 地球環境とともに < http://www.secom.co.jp/corporate/csr/report/hozen4.html >
3-2	目標14	鹿島建設株式会社	環境アセスメント、猛禽類の保全、調整池の多自然化、造成地の森林創生、ビオトープ、ホタル水路、生物共生型護岸、環境配慮型ポーラスコンクリートの利用、石倉かごによる河川生態系保全、アマモ場・サンゴ礁再生技術等を実施し、事業活動を通じた生態系の保全再生	http://www.kajima.co.jp/tech/eco_tech/biodiversity/index-j.html
3-2	目標7	スズキ(株)	「法人の森林」制度への参加 スズキは、国有林を活用した「法人の森林」制度に参加し、国と1996年から2028年まで分収林契約(約4.3ha)を結んで森づくりに協力しています。分収の際には純収益をさらに森づくり等に役立てることになっています。	スズキ環境・社会レポート2015(森林保全活動) http://www.suzuki.co.jp/about/csr/report/2015/pdf/2015_envj_04_05.pdf
3-2	目標7	パナソニック株式会社	調達分野の取り組み: 木材の調達において、「調達排除に努める区分」に当たるものを2014、15年と2年連続0を達成	同上 P62
3-2	目標7	マルハニチロ株式会社	●クロマグロの完全養殖 天然資源への負荷軽減と計画的な育てる魚魚を目的に、2015年度より商業化。2018年度に4,400トンの生産量を見込む	◆マルハニチロHP/社会・環境/特集1 http://www.maruhanihiro.co.jp/csr/feature/index.html ◆CSR報告書2016p11
3-3	目標1	トヨタ自動車東日本(株)	宮城大衡工場、岩手工場はかつて自然豊かな森でした。その森に少しでも戻すため、従業員と家族が拾い集めたどんぐりを工場内で育て、地域の方たちと共に植樹を毎年取り組んでいます。	環境社会報告書2016 P. 20
3-3	目標1	株式会社 安川電機	環境首都100万本植樹プロジェクトに参加している。 どんぐり銀行の仕組みを利用して、どんぐりから植樹まで苗を約2年間育成し、約100苗/年を植樹会で植樹している。	http://bio.jema-net.or.jp/Japanese/env/biodiversity_db/search.php http://www.yaskawa.co.jp/company/csr/env/bio
3-3	目標10	ANAホールディングス株式会社	「チーム美らサンゴ」 2004年に「チーム美らサンゴ」を結成し、行政・地域・沖縄県内外の企業と沖縄の海にサンゴ礁を蘇らせる取り組みを継続。年4回実施する活動にはこれまでボランティアのべ2000名が参加し、5000本以上のサンゴ植え付けを実施。	アニュアルレポート2016

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標10	オリックス株式会社	サンゴ礁が持つ高い生物多様性の保持能力を守り、美しい海を次世代へ残すため、2008年に沖縄サンゴ礁再生プロジェクト「SANGO ORIX」を開始しました。沖縄県海域でサンゴの移植活動を行い、サンゴ礁の成長状況などの確認調査を含めた保全・再生活動を続けています。移植は合計で10,000本を予定しています。	http://www.orix.co.jp/grp/sustainability/environment/activities.html
3-3	目標11	株式会社日立国際電気	富山市「企業の森づくり」に参画、工場近隣の2ヘクタールの市有地を企業の森とし、従業員のボランティア活動により、間伐、下草刈り、遊歩道整備を行い、里山として育てている。	同上 (当社インターネットサイト「生物多様性への取り組み」)
3-3	目標11	三井化学株式会社	当社大牟田工場(福岡県)は約5.4ヘクタールの保存樹林を持ち、持続性のある保全活動に取り組んでいる。2009年には自然環境の保全を重要な課題のひとつと位置づける大牟田市からの要請により、敷地内(高取山南側)の樹木森林の自然環境調査に協力。大牟田市自然環境調査研究会の調査により、希少植物・生物などが生息していることが判明し、『大牟田市自然環境調査報告書』としてまとめられた。	http://jp.mitsuichem.com/csr/rc/environment/biodiversity.htm CSR活動報告WEBサイト環境保全ページ
3-3	目標11	三菱電機株式会社	「東日本大震災のみどりの復興支援活動」: 2013年2月から、東日本大震災の復興支援活動として、日本環境協会等が実施する「プロジェクトD」に参加し、津波で大きな損傷を受けた海岸防災林復興のため、全国約1400名の家庭等でどんぐりの苗木を育ててきました。2016年10月には育てた苗木を被災地に植樹する予定です。	http://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/philanthropy/disaster/project_donguri/index.html
3-3	目標11	東京電力ホールディングス(株)	尾瀬国立公園全体の約4割、特別保護地区の約7割を水源涵養林の一部として保有しており、約半世紀にわたり、尾瀬の自然をまもる取り組み(湿原の回復、木道やトイレの整備、外来種予防のための種子落としマットの設置等)を続けています。	http://www.tepco.co.jp/oze/mamoru/index-j.html
3-3	目標12	(株)東芝	「希少生物の保護」を目的に東芝ライテック本社・横須賀工場では、三浦半島小網代の谷で盗掘被害に遭い絶滅寸前だったユリ科のハマカンゾウ28株を、2012年5月に敷地内へ移植し繁殖させました。そして2014年には100株を元の生息地である小網代の谷へ返還し野生回復に成功しました。また、2015年にはDNPテクノパック横浜工場へ当社から30株を移植しこちらも繁殖に成功したことから、翌年、82株を現地へ返還していただきました。今後も両社連携により小網代の谷のハマカンゾウの保護活動を継続していきます。	http://www.toshiba.co.jp/env/jp/communication/report/pdf/env_report16_Special.pdf#page=16
3-3	目標12	アズビル株式会社	福島県南会津町での「ひめさゆり」保全活動 ※2016年2月、この活動が、公益財団法人日本自然保護協議会から「日本自然保護大賞入選」として表彰されました。	http://www.azbil.com/jp/csr/basic/environment/biodiversity.html http://award.nacsj.or.jp/result_2015.php
3-3	目標12	サントリーホールディングス株式会社	公益信託「サントリー世界愛鳥基金」は、新たな助成部門として「水辺の大型鳥類保護」部門を創設しました。コウノトリ、トキ、ツルなど水辺の大型鳥類の保護活動を行っている団体への助成を通じて、水田や湿原など日本の豊かな水辺の環境保護をいっそう推進していきます。	http://www.koueki-suntory-aityou.jp/gaiyou/sikumi.html
3-3	目標12	マツダ株式会社	2016年度は三次自動車試験場(広島県)における生態系調査を実施中。	マツダサステナビリティレポート2016【詳細版】(生物多様性保全_生物多様性への取り組み:P76) http://www.mazda.com/globalassets/ja/assets/csr/download/2016/p
3-3	目標12	王子ホールディングス	高知県木屋一ヶ社有林におけるヤイロチョウ保護活動	http://www.ojiholdings.co.jp/news/2016/0824.html
3-3	目標12	株式会社アドバンテスト	ビオトープの育成による生物多様性の保全	https://www.advantest.com/csr-2015/environment/ema https://www.advantest.com/csr-2015/environment/biotope
3-3	目標12	株式会社島津製作所	京都の本社・三条工場内に整備した緑地帯において、京都の在来種であるフタバアオイの保全活動を行っている。フタバアオイは京都三大祭の1つである葵祭で使用されるが近年減少しており、在来種の保全と共に地域の伝統文化の継承にも寄与している。	http://www.shimadzu.co.jp/news/press/n00kbc00000085tr.html
3-3	目標12	株式会社富士通ゼネラル	当社(浜松事業所)敷地内に家電リサイクル工場とビオトープを併設し、大学専門家の指導のもと、地域に於ける希少動植物の保全活動を行うと共に見学受け入れなどにより地域社会への生物多様性啓発活動を実践しています。	http://www.fujitsu-general.com/jp/news/2013/03/12-V04-31/ https://www.facebook.com/e.switch.on/posts/761049997339146
3-3	目標12	関西電力 株式会社	兵庫県豊岡市では、人工飼育された国の特別天然記念物コウノトリの自然放鳥が行われています。当社は、放鳥されたコウノトリが電線に衝突して怪我をしないように電線などにカラーリングを取り付けて送電線の視認性を高め、衝突を防止する対策を施しています。	http://www.kepco.co.jp/sustainability/kankyouto/report/region/seibutsu02.html
3-3	目標12	鴻池運輸株式会社	・アマモ苗の大阪湾への移植 非営利団体の「大阪 海さくら」と協働にて、小魚等を保護・繁殖させるべくアマモ種子の発芽より移植までを通して、藻場形成のためアマモ苗の移植を実施中。	
3-3	目標12	住友商事株式会社	ロシア「チルネリス木材ビジネスプロジェクト」: 年間伐採許容量を厳しく管理した持続可能な森林経営で、森林認証制度である「FSC認証を取得」、また、絶滅危惧種のアムールの生息数増加に貢献した木材ビジネスプロジェクト	(弊社HP参照) http://www.sumitomorpcorp.co.jp/business/project-
3-3	目標12	住友大阪セメント株式会社	長崎県対馬市にてツシマヤマメコノ保護活動を展開している。セメント原料(粘土)採掘用地であったが産業廃棄物のリサイクル推進により天然粘土の使用を代替できるようになったために遊休地となった森林(約16ha)を無償で提供。森の間伐、植樹を行い、小動物が生息しやすい森を育てている。	2016年度 CSR報告書 25~26ページ http://www.soc.co.jp/wp-content/themes/soc/img/csr/csrreport2016ALL.pdf

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標12	住友大阪セメント株式会社	募金型自動販売機を本社、工場、支店、研究所等に設置。購入した金額の一部が自動的に募金できる事により、社員が気軽に募金活動に参加できる仕組みになっている。2015年度は約275万円の募金が集まり、自治体の寄付制度である「ふるさと納税」を通じて、ツシヤママネコの保護活動、震災被災地支援、自治体等に寄付している。	2016年度 CSR報告書 16ページ http://www.soc.co.jp/wp-content/themes/soc/img/csr/csrreport2016ALL.pdf
3-3	目標12	日本ケミコン株式会社	岩手県の事業所にて絶滅危惧種である地元のメダカ(ミナミメダカ)の域外保全活動を構内のピオトップにて実施している。地元の小学校・中学校に寄贈。北上川流域の他社企業に連携を呼びかけ、メダカの保護のネットワーク化を推進中。	
3-3	目標12	日本ケミコン株式会社	宮城県の事業所にて絶滅危惧種であるシナイモツゴの域外保全活動を開始した。また、生息地への放流活動を行う予定。	
3-3	目標12	日本製粉株式会社	天然記念物である『トキ』の保護活動を支援するため、トキのロゴいりスパゲッティを販売し、売り上げの一部を『新潟県トキ保護募金』に寄付金として贈呈しています。	http://www.nippon.co.jp/csr/report/ 2015年CSR報告書Web版p10
3-3	目標12	日本電信電話株式会社	NTT西日本では、NPO 葵プロジェクトとともに、グループ社員やその家族が葵の「里親」となり、職場や自宅で葵の苗木を生育して、上賀茂神社の境内に植栽する活動を実施している。また、ICTを活用して、葵の里親として活動に参加している京都府、静岡県、福井県の小学校を結んで、「葵の里親サミット」を開催。各地の子どもたちが、学習発表やディスカッションを行い、自然への思い、文化への思いを深め合った。	http://www.ntt.co.jp/csr/2014report/download/pdf/detailed_062-067.pdf CSR報告書2014.P064
3-3	目標12	富士電機株式会社	地球温暖化による海水温の上昇などにより失われたマングローブやサンゴ礁などに代表される沿岸の生態系や生息する環境を保全する活動です。富士電機マニファクチャリング(タイランド)社では、水生動植物の生息環境保護とサンゴ保護の大切さを啓発することを目的に、サンゴの植え付け活動を行っています。	http://www.fujielectric.co.jp/about/csr/social_action_program/nature.html
3-3	目標13	鴻池運輸株式会社	・地域清掃 川に生息する生物の環境整備のために、2回/年の淀川河川敷清掃を上記の「大阪海さくら」及び、地域住民、此花区役所の方々と実施している。	
3-3	目標13	大阪ガス株式会社	当社製造所では、地域本来の生物多様性を有し、高い生態系機能を備えた緑地を創出することを目標に緑地管理計画書や管理の手引きを策定し、地域性種苗による植栽やチガヤ草地等を取り入れた構内緑地を育てています。また、定期的な生物多様性モニタリング調査を実施し、生物多様性への取り組みの効果を検証しています。	http://www.osakagas.co.jp/company/csr/charter02/biodiversity.html#4
3-3	目標14	アステラス製薬株式会社	アステラスは社会貢献を通じた生物多様性への取り組みとして、2015年度は4回目の開催となる筑波山の植樹を行いました。アステラスの社員、及びその家族ボランティアなど、延べ100名以上が参加し、筑波山に約600苗の植樹を行いました。今回植樹した約600苗の中には、社員がつくば研究センターの敷地で採取したどんぐりから育てた約100苗も含まれています。	アステラス製薬HP CSRサイト https://www.astellas.com/jp/csr/environment/biodiversity.html
3-3	目標15	アズビル株式会社	神奈川県藤沢市での緑地保全活動 NPO法人藤沢グリーンスタッフの会の指導を受けながら、市の所有地で、間伐や切った木を利用しての歩道の整備などを実施しています。	http://www.azbil.com/jp/csr/basic/environment/biodiversity.html
3-3	目標15	旭硝子株式会社	森林ボランティア(本社企画): 森林保全の大切さや生物多様性への意識を高めることなどを目的として、2008年度からAGCグループ従業員やその家族などが参加する「森林ボランティア活動」を、各地で実施し、間伐や森林整備作業などを行っています。	http://www.agc.com/csr/social/activity_4.html
3-3	目標15	丸紅株式会社	間伐伐採、地域清掃などのボランティア活動などに、役員・社員やその家族が毎年参加している。	http://www.marubeni.co.jp/csr/contribution/volunteer/
3-3	目標15	鴻池運輸株式会社	・植樹 毎年6月の環境月間において、各拠点にて環境記念月間として植樹を実施。実施場所が無い場合も、「トロの森 基金への寄附を実施」。	
3-3	目標15	三井物産株式会社	三井物産環境基金の助成先NPOと協働で、茨城県牛久市にて機械化が難しく、更に農業の担い手不足などから荒廃した谷あいの水田(谷津田)を無農薬での米作りを通じて再生するプロジェクトを実施。グループ企業を含めた社員や家族が多数参加して、田植え、草取り、稲刈り、さらに収穫した米を使った日本酒づくりなどを行っている。現場では生物調査により多様な生物の回帰状況を確認、豊かな生態系の着実な再形成に貢献。	(三井物産WEBサイト) 社員参加の社会貢献活動 谷津田再生プロジェクトのこれまで(10YEARSより) http://www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/fund/10years/yatsuda/
3-3	目標15	三菱ガス化学株式会社	『環境保全投資』と称して、投資回収期間が長いなどの理由で通常の投資案件には乗りにくいのが、環境負荷削減効果が大きい案件を募集・選考し、投資を実行している。この環境保全投資に、生物多様性保全に係る投資も対象として加えた。現在のところ生物多様性保全として実施した事例はない。	http://www.mgc.co.jp/csr/index.html CSRレポート2016 42ページ 環境保全投資
3-3	目標15	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	「協働の森づくり」 日本国内の市町村7カ所と森林協定を結び、地域の市民団体と協働で森づくりを行い、気候変動の緩和、災害に強い国土づくりに貢献し、生物多様性保全の理解を深めている。	http://www.sjnk.co.jp/csr/environment/eco/forests/
3-3	目標15	大栄環境株式会社	社有林(三重)の治山事業地における自然林再生への取り組み～地元住民・森林組合・行政・学識経験者・大栄環境グループによる協働(プロジェクト期間: H29-H33)	
3-3	目標15	東京海上日動火災保険株式会社	1999年からNGOと連携して「マングローブ植林プロジェクト」を継続実施している。これまで東南アジア等9カ国で約9,474haを植林(2016年3月末現在)している。2007年には「マングローブ植林100年宣言」を行い、継続的に生物多様性に係わっていくこととしている。また、三菱総合研究所に調査を委託し、1999年4月から2014年3月までの間に生み出された経済価値の評価を実施したところ累計約350億円に達しているとの試算結果を得た。	http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/greengift/mangrove/
3-3	目標15	東京海上日動火災保険株式会社	2009年5月に「環境先進企業との協働の森づくり事業」において、高知県、安芸市、高知東部森林組合と5年間の「パートナーズ協定」を締結し、安芸市の森林整備に協賛している。(2014年5月に5年間の協定を更新)協定した森林は「東京海上日動 未来への森」と名付け、間伐体験や地元の方々との交流を行う「間伐体験ツアー」を実施している。	http://www.tokiomarinehd.com/sustainability/theme2/
3-3	目標15	東京急行電鉄株式会社	二子玉川再開発事業において、生物多様性を高める事業を評価するJHEP(ハビタット評価認証制度)において、最高ランクとなるAAAを取得し、さらに「自然環境に配慮した多様性のある街」「エネルギーや資源の無駄を省いたサステナブルな街」が評価され、世界初となるLEED NDのゴールド認証を取得しました。	ニュースリリース http://www.tokyu.co.jp/file/151120-1-1.pdf

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標15	日本精工株式会社	■群馬県の県有林整備パートナー事業に賛同し、2015年10月から2020年10月までの5年間協定を締結し、寄付金を提供するとともに、草刈や間伐を継続して実施している。 このことにより、CO2 2.9 ton を吸収量として認証される見込み。 (但し、認証される吸収量は排出量取引には使えない)	2016年CSR報告書 掲載予定 http://www.jp.nsk.com/company/presslounge/news/2016/press0122a.html
3-3	目標15	日本製粉株式会社	北海道深川市にあるグループ会社の遊休地を活用するため、10年にわたり植樹を行い整備していきます。(ニッポン四季の森プロジェクト)	http://www.nippon.co.jp/csr/report/2015/2015CSR報告書冊子版p24
3-3	目標20	テルモ株式会社	2011年9月よりテルモ(株)、森林所有者、静岡県との三者で「しずおか未来の森サポーター協定」を締結して、森づくりについて定期的に意見交換をしながら、森づくりを進めている。また近隣の中学校とも連携して次世代を担う子供達と一緒に森づくりに取り組んでいる。	http://www.terumo.co.jp/archive/ar_j/AnnualReport_2016_Sustainability_J.pdf 2016年アニュアルレポートp62
3-3	目標20	花王株式会社	2000年から行なっている「花王・みんなの森づくり活動」は、身近な緑を守り育てる「森づくり活動」と、身近な緑を活用し子どもたちが緑とふれあえる機会を創出する「環境教育活動」を2本の柱とし、それぞれの活動に取り組んでいるのべ411の市民団体を支援してきました。2015年、第65回「都市緑化功労者 国土交通大臣表彰」を企業では唯一、受賞しました。	http://www.kao.com/jp/corp_news/2015/20151102_001.html
3-3	目標20	株式会社日立国際電気	宮城県柴田町の館山城址公園での植栽活動に従業員および家族がボランティア参加し、遊歩道沿いの斜面に水仙を植栽した。	http://www.hitachi-kokusai.co.jp/csr/er/er2016/er2016_012.pdf CSR報告書2016 p17
3-3	目標4	JXエネルギー株式会社	社有地管理における配慮や企業の森における保全活動	http://www.noe.jx-group.co.jp/csr/society/environment/index.html
3-3	目標4	協和発酵キリン株式会社	事業場毎に河川の清掃(黄瀬川・静岡)、アマゴの稚魚放流(桃沢川・静岡)、「秋吉台の草原を守り・育む活動(秋吉台・山口)」など、その地域の方々とともに生態系を守る活動に取り組んでいます。富士工場では、このたび静岡県の「リバーフレンドシップ制度」という枠組みの中で、新たなスタートを切ります。3月17日(木)に沼田土木事務所、長泉町、KHKの三者でリバーフレンドシップ同意書調印式が行われました。	http://www.kyowa-kirin.co.jp/csr/environment/biodiversity/index.html
3-3	目標4	三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	営業拠点で地域社会に貢献し、信頼関係を築く活動の一つとして「生きもの応援活動」を実施。①ナショナル・トラスト活動の支援・普及啓発活動 ②NGOと協力した各種イベントの実施・参画 ③生物多様性、絶滅危惧種をテーマとしたロビー展の開催 ④在来植物の保護などを目的とした森林、里山の保全活動の実施 他多数。	CSRLレポート2015 (p.111-127) http://smth.jp/csr/report/2015/full/all.pdf
3-3	目標5	(株)東海理化	◆植樹による生物多様性保全 工場周辺地域に生息する自然植生種を用いた工場緑化に取り組んでいます。「社員にやさしさを与える緑地づくり、植樹による従業員のエコマインド醸成」というコンセプトのもと、社員とその家族が植樹会に参加し、活動を推進しています。	環境・社会報告書2016 p20
3-3	目標5	KDDI株式会社	神奈川県真鶴町で「真鶴町魚つき保安林調査活動」を実施。真鶴町が公益財団法人オイスカと共同で実施している「魚つき保安林保全プロジェクト」の一環で、KDDI社員がボランティアとして参加し、KDDIのソリューションサービスとタブレットを活用して、お林と呼ばれる魚つき保安林の植生調査活動を実施しています。	http://news.kddi.com/kddi/corporate/csr-topic/2016/07/08/1906.html
3-3	目標5	アサヒグループホールディングス株式会社	アサヒグループでは、持続可能な水資源を守ることをCSR重点テーマのひとつに掲げ、「水源地の森保全活動」を積極的に行っています。毎回、各工場やグループ会社の従業員、その家族などが活動に参加し、地域のNPOや森林組合、行政などと協働して植林や下草刈り、枝打ち、間伐などを実施しています。現在、グループ全体で12カ所の森で森林保全活動を行っています。2004年に開始以来、2015年末までに全国で115回行い、約5600人が参加しました。	http://www.asahigroup-holdings.com/csr/environment/operation/conservation.html
3-3	目標5	アンリツ株式会社	富士山「緑の募金の森」緑化活動:この活動は、1996年の台風で倒壊した富士山の森林をよみがえらせるという、国土緑化推進機構が中心となって進めているプロジェクトです。リコーリース(株)様の呼びかけに応じて、当社も2006年から毎年、ボランティアを募って参加しています。子供向けの森林教室も実施されます。	2016 CSR報告p.67: http://dl.cdn-anritsu.com/ja-jp/about-anritsu/csr/2016/j-ar2016.pdf
3-3	目標5	アンリツ株式会社	「緑の募金」活動:売上金の一部が「緑の募金」(かながわトラストみどり財団)に寄付される自動販売機を2006年から設置し、植樹等に使われています。	2013 CSR報告p.36: http://dl.cdn-anritsu.com/ja-jp/about-anritsu/csr/2013/J-Anritsu2013PDF.pdf
3-3	目標5	イビデン株式会社	岐阜県、揖斐川町、NPO法人揖斐川自然環境レンジャーと「生きた森林づくり」を締結し、東横山地区「イビデンの森 東横山」、鶴見地区「イビデンの森 ふじはし」において10ヵ年計画での持続可能な森林再生活動に継続的に取り組んでいる。 また、当地に植栽する苗木は周辺の土地から採取した種子から育成したものを利用している。	http://www.ibiden.co.jp/csr/contribution/forest/index.html
3-3	目標5	キヤノン株式会社	キヤノンでは、生物多様性方針にもとづく活動の象徴としてバードブランチプロジェクトを推進。2015年は、下丸子本社の広大な緑地「下丸子の森」を生かして巣箱や水浴用「バードバス」の設置、ネットワークカメラによる定点観測、鳥類を調査する「ルートセンサス」の実施など、野鳥観察のための環境整備に取り組み、従業員とその家族を対象とした野鳥イベントを開催しました。	http://web.canon.jp/csr/report/pdf/canon-sus-2016-j.pdf キヤノンサステナビリティレポート2016 p63
3-3	目標5	スズキ(株)	「スズキの森」植林 スズキは、2006年に林野庁天竜森林管理署と「ボランティアの森」協定を結び、浜松市北部の「スズキの森」で森林保全活動をスタートしました。 2008年からは社員やその家族、友人による植林や下草刈りの作業だけではなく、春には椎茸の菌打ちの体験、秋には収穫イベントを行っています。楽しみながら森林保全に取り組む活動が継続しています。	スズキ環境・社会レポート2015(森林保全活動) http://www.suzuki.co.jp/about/csr/report/2015/pdf/2015_envj_04_05.pdf
3-3	目標5	パナソニック株式会社	土地利用分野の取り組み: オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社 松本工場にて、(公財)日本生体系協会 JHEP認証「将来見込型」取得(2010年10月) →2015年9月評価ランクAへアップした。	同上 P61

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標5	ブラザー工業(株)	ブラザーグループでは2008年の創業100周年を機に、岐阜県・郡上市と生きた森林づくり協定を結び、植樹や間伐活動を支援しています。在来種の植樹や冬の間に雪の重みで倒れた苗木の雪起こし、これまでに苗木を植えても育たなかった場所への補植を行っています。2015年4月には、名古屋大学臨床環境学コンサルティングファームチームにも協力をいただき、これまでに植えた木の育成状況も調査しています。	http://www.brotherearth.com/ja/environmental-views/gujo.html
3-3	目標5	ブラザー工業(株)	マングローブ林は、小魚、カニ、貝、エビの宝庫で、豊かな生態系を形成します。しかし、近年の塩田開発やエビ養殖の影響により、タイのマングローブ林は急速に減少しました。ブラザーコマース(タイランド)では、2009年度からマングローブ林の保護と再生を支援しています。2015年10月は、従業員、お取引先、学生、一般の方を含めて、総勢281人が植樹活動に参加し、マングローブの苗木300本を植樹しました。	http://www.brotherearth.com/ja/environmental-views/thailand.html
3-3	目標5	プリマハム株式会社	公益社団法人 埼玉県農林公社と埼玉県農林部寄居林業事務所の指導のもと、プリマハムグループ従業員参加による間伐活動を実施している。	http://www.primaham.co.jp/company/eco/2016/2016.html
3-3	目標5	マツダ株式会社	マツダが命名権を取得している広島市民球場(愛称:MAZDA Zoom-Zoomスタジアム広島)へ、ナイター照明用として環境に配慮したグリーン電力(再生可能エネルギー)を提供してきた。2013年度より同球場のナイター照明電力の発電時に排出されるCO2を広島県の森林吸収量クレジットでオフセットする取り組みを開始。これは、マツダが広島市へ提案し、県や広島東洋カープの賛同を得て実現したもので、2016年も継続実施中。	マツダサステナビリティレポート2016【社会貢献版】「森を育てるナイター電力カーボンオフセット:P3」「マツダスタジアムでの社会貢献活動:P6」 http://www.mazda.com/globalassets/ja/assets/csr/download/2016/pdf/2016_s_all.pdf
3-3	目標5	ヤマトホールディングス株式会社	ヤマトグループの施設である羽田クロノゲートでは、地域環境との共生を目指す「社会貢献エリア」を設けています。敷地内に周辺の生態系に合致した多様な樹木を植栽するほか、自然石材を利用したピオトープを造成し、虫やメダカなどさまざまな生き物の棲み家としています。	http://www.yamato-hd.co.jp/csr/environment/protection.html ヤマトホールディングスHP CSRの取り組み ⇒環境⇒環境保全への貢献
3-3	目標5	リコーリース株式会社	・生物多様性保全コンビニ決済サービス ~専用用紙による商品代金払い込みで生物多様性を保全~ 生物多様性保全コンビニ決済サービス。お客様に商品代金のお支払いの際、コンビニ決済サービスをご利用いただいた件数に応じて、生物多様性を保全する団体に当社が寄付をすると共に、当社社員が動植物の保護、および生息地保全活動を支援するもの。	https://www.release.co.jp/csr/env/env_management.html
3-3	目標5	横浜ゴム株式会社	中国の事業統括会社・優科豪馬橡膠有限公司は、中国雲南省老君山自然保護区内で、森林伐採のみに依存した経済からの脱却を図り生態系を保護するための「村バンク」の設立を支援、環境保護エリアを設け、養蜂や葡萄の栽培など製品の開発と販売による社に頼らない仕組みを整え、村の森林面積の約20%に当たる1,666haの森林が保護された。	http://www.y-yokohama.com/csr/data/pdf/22.pdf サイトレポート:優科豪馬橡膠有限公司(Y-CH) CSRレポート
3-3	目標5	株式会社カネカ	滋賀工場に隣接する「木の岡ピオトープ」にはさまざまな生物が生息しており、この貴重な自然環境を後世まで残していくために、滋賀県や大津市、滋賀工場(運営委員)を含む地元自治会のメンバーで構成された「おにごるみの学校」では、定期保全活動(草刈り、歩道の整備、樹木の看板の更新等)や季節ごとの自然観察会を各々年3回程開催し、観察会は子どもたちの学習機会の創出とピオトープの大切さを伝える取り組みとなっています。	http://www.kaneka.co.jp/csr/environment/07/CSRレポートWEB版生物多様性への取り組み
3-3	目標5	株式会社カネカ	高砂工業所では、2012年から兵庫県の「企業の森づくり事業」に参画し、同県多可町にて「カネカみらいの森づくり」として、山林整備・保全活動を進めています。2015年4月には新入社員を中心に約60名が、また同年11月には社員およびその家族約65名が集まり、伐採作業等を行いました。伐採活動にあたっては、事前に多可町からレクチャーが行われます。	http://www.kaneka.co.jp/csr/environment/07/CSRレポートWEB版生物多様性への取り組み
3-3	目標5	株式会社リコー	生物多様性保全のための森林保全プロジェクトをマレーシア、中国、日本(長野、沖縄)、ロシア(沿海州)、メキシコで現地の人々、環境NGO等と連携して実施。 愛知目標の該当項目は複数(5、11、14、18)⇒ 行動指針は3-3、6-1	http://www.ricoh.com/ja/ecology/biodiversity/contribution/forest_eco_system.html
3-3	目標5	株式会社日立ハイテクノロジーズ	JHEP認証を取得した「日立ハイテクサイエンスの森」において自然再生活動を実施(人工林から自然林への移行等)	http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/csr/environment/mind_management/bio.html
3-3	目標5	(株)日本触媒	兵庫県の「日本触媒・水源の森」づくりの活動では、大学等の教育・学術機関の協力を得て、水源涵養林を流れる川の水質調査、水生生物の調査を実施しています。森と生物との関係など、子どもの環境教育の場にもなっています。	ホームページ内「CSR活動」 http://www.shokubai.co.jp/ja/csr/society/index.html CSR報告書2016 P18
3-3	目標5	古河機械金属(株)	当社グループでは2009年より社内ボランティアを募集し、日光市足尾町の社有地に桜千本植樹を目指す「足尾さくら植樹会」を年1回開催しており、2016年3月に第7回の植樹会を開催しました。今後も引き続き開催していきます。	http://www.furukawakk.co.jp/pdf/CSR/FER2016.pdf 参考資料:CSR報告書2016 P19
3-3	目標5	古河機械金属(株)	日光市足尾町松木地区の社有地のエリアを古河グループの環境保全活動の場とするため、2015年に「古河の森植樹会」を結成しました。同年5月に第1回、2016年4月には第2回の植樹会を開催し、栃木古河会の会員20数社延べ114名が参加しました。今後も引き続き開催していきます。	http://www.furukawakk.co.jp/pdf/CSR/FER2016.pdf 参考資料:CSR報告書2016 P19
3-3	目標5	三井化学株式会社	当社の関係会社と近隣の7企業と合同で、タイ Nongfab 地区の環境保全を目的とした活動「Change a deserted forest to be a mangrove forest Year 2」に参加。今年度は、マングローブ500本の植樹、稚魚(4-5インチのwhite sea bass)700匹の放流、クリーンアップ(ゴミ900kgを回収)を実施。	http://jp.mitsuichem.com/csr/rc/environment/biodiversity.htm CSR活動報告WEBサイト環境保全ページ

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標5	三機工業株式会社	「SANKI YOU エコ貢献ポイント」制度の展開 当社は、『SANKI YOUエコ貢献ポイント』制度を2010年10月より展開しています。当制度は、お客さまに省エネ提案が採用された場合、CO2削減量をポイント(1トンあたり100円)に換算して、環境保全活動に寄付するものです。寄付先は、認定NPO法人環境リレーションズ研究所、NPO法人森のライフスタイル研究所、社会福祉法人進和学園です。それぞれ独自の植林活動を展開しています。	http://www.sanki.co.jp/report/ 2016年 SANKI REPORT p66
3-3	目標5	三機工業株式会社	三機の森(創立90周年記念事業) 創立90周年を記念して、2015年10月に山梨県甲斐市で植林を実施しました。社長および全国から集まった100名弱の従業員が、自らの手で植林を行いました。合計1,000本を植林し、「三機の森」と命名しました。	http://www.sanki.co.jp/report/ 2016年 SANKI REPORT p69
3-3	目標5	三機工業株式会社	三機自然環境園 当社大和事業所の自然環境園は、2005年に開園したビオトープで一般公開しています。約1000㎡の園内は、市街地における生物の休息・繁殖地として、地域の生物多様性保全に寄与しています。	http://www.sanki.co.jp/report/ 2016年 SANKI REPORT p70
3-3	目標5	三菱電機株式会社	「里山保全プロジェクト」:2007年10月から、事業所周辺の公園や森林、河川などの「身近な自然」を回復する活動「里山保全プロジェクト」を実施しています。多様な生命を育み、様々な恵みを与えてくれる自然へ「恩返し」とともに、事業所のある地域に貢献することです。地域の方々とコミュニケーションを深めていきたいと考えています。	http://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/philanthropy/case/field/ecology/satoyama/index.html
3-3	目標5	三洋化成工業株式会社	京都モデルフォレスト運動の趣旨に賛同し、京都府和束町で「三洋化成の森」づくり活動を行っている。資金提供による間伐と、従業員等によるボランティアで遊歩道整備・間伐などを実施。	「三洋化成の森」活動: http://www.sanyo-chemical.co.jp/csr/bos-cage.html CSRレポート2016 P32.38 http://www.sanyo-chemical.co.jp/csr/pdf/csr2016.pdf
3-3	目標5	出光興産株式会社	【工場緑化の取り組み】当社で初となる徳山製油所建設(1957年竣工)にて市街地と装置の間に西洋風の庭園を模した大きなグリーンベルト(緑地)を設置しました。その後の建設にも継承され、現在、北海道、千葉、愛知、徳山の事業所全体で約240ヘクタール(東京ドーム約50個分)の緑地を管理しています。	http://www.idemitsu.co.jp/csr/wp_csr/environment/biodiversity.html 生物多様性への対応
3-3	目標5	曙ブレーキ工業株式会社	インドネシアにて生物多様性に配慮した植樹(苗3000本)を実施。苗の選定にあたり在来自生種に拘るのは勿論、経済性やCO2吸収能力、樹木の多様性にも配慮しました。1年間で3mも成長をするManglidはCO2吸収力が極めて高く、家具材料にも適しており、環境にも経済的にも優れています。しかし植生が単調にならないよう、花の美しいPuspa(ツバキ科)、Rasamala(マンサク科)らも混植しています。	http://www.akebono-brake.com/docs/e_catalog2014/index.html#page=50 2014年報告書 48頁
3-3	目標5	新日鐵住金株式会社	当社は、「自然と人間の共生」を目指して、国際生態学センターの宮脇昭所長(横浜国立大学名誉教授)のご指導のもと、製鉄所・製造所の「郷土の森づくり」を推進してきました。これは、その土地本来の自然植生を調べ、慎重に樹木を選定し、ポット苗をつくり、造成したマウンドに地域の方々と社員が一つひとつ丁寧に植えていくもので、日本で初めての生態学的手法に基づく企業による地域の景観に溶け込む森づくりとなりました。	http://www.nssmc.com/csr/env/forest.html 環境・社会報告書2016 p28・29
3-3	目標5	田辺三菱製薬株式会社	関東エリアにおいて、東京都およびNPO法人自然環境アカデミーとともに「東京グリーンシップ・アクション」に参画し、東京都指定の「八王子滝山里山保全地域」の里山を保全・復元する活動に取り組んでいる。また、関西エリアにおいて、大阪府主催の環境イベント「生駒山系花屏風ハイキング/植樹活動」に協賛し、災害防止や生物多様性保全の観点で、ササヤクズなどの無秩序な拡大を抑える取り組みを行っています。	http://www.mt-pharma.co.jp/csr/report/2016/environment/promotion.html 2016年CSR活動報告 「環境コミュニケーション推進」の項
3-3	目標5	東北電力株式会社	当社企業グループは、東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた海岸防災林の復活活動へ取り組んでおり、2016年度は、福島県相馬市磯部の大洲地区で、5月と6月の二回に分けて、近隣の小・中学校とともに、約4200本のクロマツを植樹した。	東北電力HP http://www.tohoku-epco.co.jp/enviro/bousairin/index.html
3-3	目標5	凸版印刷株式会社	モデルサイト(深谷工場他)の敷地内緑地で生物多様性保全活動を開始し、「生き物と共生できる森づくり」をテーマに社員とその家族が、保全活動を行っています。深谷工場ではこれらの活動が評価され、2015年2月に生物多様性に配慮した施設を認証する「ABINC認証」を取得、2016年9月にはABINC賞を受賞しました。その他にも、朝霞工場内に設置した保全池での地域希少種保全など、事業所内外の生物多様性保全活動に積極的に取り組んでいます。	TOPPAN CSRレポート 2016 P46 「生物多様性保全の取り組み」 http://www.abinc.or.jp/articles/new_article/30
3-3	目標5	日本ガイシ株式会社	北海道網走でのミズバショウの保全	http://www.ngk.co.jp/csr/web/environment07.html
3-3	目標5	日本ガイシ株式会社	愛知県北設楽郡「オイスカの森」ヤマザクラ植樹活動	http://www.ngk.co.jp/csr/web/environment07.html
3-3	目標5	日本航空電子工業株式会社	2004年に環境経営のシンボルとして「航空電子グループの森」を開設し、植林や下草刈りなどの活動に取り組んでいます。ここではグループ社員の森林保全体験による環境意識啓発の場とすることに加え、生物多様性の保全、温室効果ガス(CO2)の吸収並びに水源の涵養に貢献している。	http://www.jae.com.jp/env/2016/jaegroup.html 2016年環境報告/航空電子グループの森
3-3	目標5	日本通運株式会社	山形県飯豊町、鳥取県日南町、静岡県伊豆の国市の全国3ヶ所に「日通の森」を設け、それぞれの地域で年2~3回の森林育成活動を実施している。そこで従業員に対し、生物多様性保全の重要性を伝えている。	http://www.nittsu.co.jp/corporate/csr/report/2016/csr報告書p58
3-3	目標5	日本通運株式会社	北海道釧路管内の社有林にて、絶滅危惧種「シマフクロウ」の生息地拡大に向けた活動を実施している。	http://www.nittsu.co.jp/corporate/csr/report/2016/csr報告書p59
3-3	目標5	日立金属株式会社	①環境保全啓発イベント「Environment Function」を開催し、植樹及び環境教育を実施(Hitachi Metals (India) Private Limited) ②Malepunyo山の植樹と育成活動に参加(Hitachi Cable Philippines, Inc.)	http://www.hitachi-metals.co.jp/csr/pdf/2016/detail_csr2016_11.pdf P.54

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標5	豊田合成株式会社	<工場の森づくり> 2009年に会社創立60周年記念行事として取組みを始めました。森づくりの提唱者として知られる宮脇先生の指導のもと、平和町工場からスタートした活動は、国内外23拠点、約28万本を植樹。	http://www.toyoda-gosei.co.jp/csr/dl/豊田合成レポート2016 P32
3-3	目標5	豊田合成株式会社	<ビオトープの設置> 2015年に美和技術センター内にビオトープを造成しました。「工場の森」に隣接したビオトープにメダカや田字草を育成しています。	http://www.toyoda-gosei.co.jp/csr/dl/豊田合成レポート2016 P32
3-3	目標7	鹿島建設株式会社	社有林の間伐や広葉樹の活用により森林生態系保全・向上に努めるとともに、森林J-Verを取得して森林の価値を顕在化。管理時に発生した伐採材を場内利用や環境教育に活用	鹿島コーポレートレポート2016 P.68
3-3	目標9	(株)八十二銀行	◆「生物多様性保全」への取組み 平成23年に「生物多様性保全 基本姿勢」を制定し、平成26年度より特定外来生物「アレチウリ」駆除ボランティアを実施。28年度は5ヶ所9回の活動で延べ237名の役職員が参加しました。	同 P45
3-3	目標9	株式会社日立ハイテクノロジーズ	外来種の駆除	http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/news/csr/2016/2016-1014-3.html
3-3	目標9	日本精工株式会社	■工場が琵琶湖湖畔に位置するため、外来魚駆除の活動を2014年度から毎年、従業員で有志を募り実施している。 ■工場が国指定の天然記念物『宝蔵寺沼ムジナモ自生地』の近く(約4km)にあり、生息地周辺に生育する外来種(セイタカアワダチソウ)の草刈を、羽生市の指導の下2016年10月から実施している。	2015年CSR報告書P.57 HP掲載予定
4-1	目標1	帝人株式会社	独自のケミカルリサイクル技術を核とした循環型リサイクルシステム「エコサークル」を、同じ理念を持つアパレル、スポーツメーカー150社以上のパートナー企業と推進しています。小学校等の体操服を循環リサイクルする取組み「tiopro」では、体操服をリサイクルするだけでなく工場見学や学習会などを通じた小学生たちの環境教育にも取り組んでいます。	http://www.teijin.co.jp/solutions/ecocircle/ http://tiopro.net/
4-1	目標10	イオン株式会社	スマートイオン:店舗の環境負荷を減少させるスマートイオンを開発。①スマートエネルギー:エネルギーを地域で効率的に融通しあう仕組みの構築を推進。②WAON・ネットとの融合:イオンの電子マネー「WAON」やインターネット環境を積極的に活用し、環境に負荷をかけないショッピング環境やサービスを提供。③防災・地域インフラ:緊急時、地域の防災拠点として機能する店舗。④生物多様性・景観:自然の要素を取り入れ、景観や生物多様性を意識した店舗設計を推進。⑤交通環境(スマートモビリティ)人と環境にやさしい交通の創出。	http://www.aeon.info/environment/environment/ecostore/
4-1	目標10	ユニ・チャーム(株)	気候変動への対応として、CO2発生を抑制する為に広くInventory情報を収集して、積極的に第三者認証を取得することによって、省エネ活動や環境配慮型商品導入を促し2016年CDPでもA-評価まで改善が認められる状況になった。	http://www.unicharm.co.jp/csr-eco/environment/warming/index.html
4-1	目標12	三井製糖株式会社	当社は砂糖事業と関係の深いさとうきび産業と共生した自然を守ることが当社の社会的責任の1つであると考えております。さとうきび産業があり、貴重な固有種が数多く存在する鹿児島県徳之島で、島民の環境教育を主とした生物多様性保全活動を行うNPO法人「徳之島虹の会」と一緒に、特別天然記念物アマミノクロウサギの交通事故防止活動、環境省等が企画した島民参加型アマミノクロウサギ、ケナガネズミ全島調査を共催しました。	徳之島虹の会HP: http://www.shimaniji.net/ 弊社2016年CSR報告書 p15
4-1	目標15	三井不動産株式会社	グループ会社所有の北海道約5,000haの保有林を森林の特性に応じ適切に保全・管理し積極的に活用する「森をそだてる・つくる・いかす」のサイクルを構築。保有林材を下地材に活用した「スマートフローリングプロジェクト」は「国産材の活用」「生物多様性の保全」「CO2の長期吸収・固定」などが評価されグッドデザイン賞受賞。また「ららぽーと海老名」内に設置した木育施設「WOOD-CUBE」はウッドデザイン賞を受賞。	http://www.mitsuidos.co.jp/corporate/csr/2016/pdf/mf_csr2016_dg_05.pdf
4-1	目標4	(株)奥村組	当社技術研究所では、管理棟の一部で太陽光発電や地中熱(空調)を利用しています。	
4-1	目標4	(株)八十二銀行	◆環境配慮設備の導入(店舗やアパート等の新築・改修時の太陽光発電の設置、リサイクル材の利用、外断熱工法の採用)、再生可能エネルギーの導入(一部店舗でバイオマス発電の電力に切替)◆グリーン購入方針・基準を制定し、グリーン購入を推進	同 P43、P44
4-1	目標4	JFEホールディングス(株)	「スクラップ再資源化」 国内ではスチール缶のリサイクル率は90%を超えていますが、鉄スクラップとして品質がよく、エネルギー効率も高い日本の鉄鋼製品の再資源化は、地球規模での省資源・省エネルギーに貢献しています。	http://www.jfe-holdings.co.jp/environment/report.html CSR報告書2016P24
4-1	目標4	KDDI株式会社	通常の商用電力に加え、太陽光パネルによる発電、深夜電力により蓄電池に充電された電力を時間ごとに効率よく供給する電力制御技術を用いた「トライブリッド基地局」をau携帯電話基地局に導入。日本全国100カ所に設置。従来の商用電力のみを使った場合よりも、CO2排出量において最大約30%の削減が見込めます。	http://media3.kddi.com/extlib/files/corporate/csr/csr_report/2016/pdf/report2016_09.pdf (上記URL:P14)
4-1	目標4	KDDI株式会社	auショップでお客さまから回収した使用済み携帯電話を一台ずつ手作業によって、基盤、液晶、カメラ、プラスチック、ネジ、鉄、アンテナ、モーター、スピーカーなどに分解し、それぞれリサイクルしています。2015年度も、99.8%とほぼ100%に近い再資源化率を実現しました。	http://media3.kddi.com/extlib/files/corporate/csr/csr_report/2016/pdf/report2016_09.pdf (上記URL:P17)
4-1	目標4	トヨセット株式会社	事務用机スチール天板の梱包に使う角あての経常を工夫し、フックとして再利用できる仕組みを取り入れている	
4-1	目標4	ナブテスコ株式会社	排水基準の厳格化 水質管理:事業所地域の排水基準より厳しい自社管理基準を設け、排水のモニタリング・管理を行っている。	https://www.nabtesco.com/library/annual_report/oir2015_12/fundamental/environment/emission.html
4-1	目標4	マツダ株式会社	「エネルギー」や水資源を含む「資源」を重点として生物多様性への影響度軽減のため、商品、生産・物流工程で取組みを進めている。商品での取組みは、「自動車の燃費向上(SKYACTIV技術等の開発・導入)」「資源リサイクル推進(リサイクル容易な部品や素材の開発・採用)」、生産・物流工程での取組みは、「地球温暖化防止(モノ造り革新、省エネルギー生産の取組み)」「資源の有効活動の推進(リサイクル推進、グリーン調達推進)」など。	マツダサステナビリティレポート2016【詳細版】 (「商品・技術開発における取組み_エネルギー/温暖化対策:P57~59」、「生物多様性保全:P76」) http://www.mazda.com/globalassets/ja/assets/csr/download/2016/pdf/2016_all.pdf

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
4-1	目標4	ミサワホーム株式会社	建築部材の生産工場及び住宅を施行する現場において、廃棄物の埋め立て及び単純焼却を行わない、リサイクル100%とした、ゼロ・エミッション化を実施。また、100%リサイクル素材でできた「M-Wood2」を開発、発売。	www.misawa.co.jp/corporate/csr/2016年CSRレポートp46、52
4-1	目標4	ユニ・チャーム(株)	使用済み紙おむつの再資源化の技術開発を進めて、2016年2月はLCA学会会長賞を受賞した。2016年11月は鹿児島県志布志市と実証実験の協定を締結した。CircularEconomy社会への実現に向けて対応を進めている。	http://www.unicharm.co.jp/csr-eco/special03/index.html
4-1	目標4	ルネサス エレクトロニクス株式会社	当社の環境行動指針：第1番目に、「研究開発・設計・調達・生産・販売・流通・使用・廃棄にいたる全ライフサイクルで環境に配慮した半導体製品を創出し、社会に貢献します」と掲げており、「エコプロダクト活動(環境配慮型製品の創出)」に関する内容を掲載しております。	https://www.renesas.com/ja-jp/media/about/company/csr/2016-environment-all.pdf 環境レポートP12からP14
4-1	目標4	レンゴー株式会社	・八潮工場に建築廃材起源の木質チップを燃料とするバイオマスボイラ発電設備を導入 省エネ・地球温暖化防止効果・33,850 kl(原油換算)削減、65,000t-CO2削減	環境・社会報告書2016 9.10頁参照
4-1	目標4	株式会社 高島屋	婦人・紳士・子どもウールスーツ・コートリサイクルキャンペーン(全店):2002年から実施。ウール衣料品の回収を行い、断熱材や自動車内装材に再利用されている。	http://www.takashimaya.co.jp/corp/csr/environment/recycle.html
4-1	目標4	株式会社 高島屋	食品リサイクルによる発電(新宿店):食料品、レストラン等から発生する生ごみをリサイクル施設に持ち込み、微生物分解するメタン発行システムにより、電気と都市ガスを作り出し、電力会社やガス会社に供給している。	http://www.takashimaya.co.jp/corp/csr/environment/recycle.html
4-1	目標4	株式会社カネカ	当社の2015年度の最終埋立処分量は4.7トン、最終埋立処分率は0.007%となり、10年連続でゼロエミッションを達成しました。また、国内グループ会社28社を含めた国内カネカグループ連結として、2012年度から4年連続ゼロエミッションを達成することができました。今後も最終埋立処分量の削減に向けて取り組んでいきます。	http://www.kaneka.co.jp/csr/environment/05/CSRレポートWEB版 廃棄物削減と汚染防止
4-1	目標4	株式会社セブン&アイ・ホールディングス	国内の森林資源保全を目的に、間伐材の活用に取り組んでいます。例えば、全国のセブンスターを中心に販売している「セブンスター」のホットカップの外側のスリーブ部に間伐材を導入しています。また、プライベートブランド「セブンプレミアム」の飲料やカップスープの容器にも、グループで保全活動を行っているセブンの森から伐採した間伐材を使用しています。	http://www.7andi.com/dbps_data/_template/_user/_SITE/_localhost/_res/csr/pdf/2016_all.pdf CSRレポート2016
4-1	目標4	株式会社セブン&アイ・ホールディングス	イトーヨーカドー、ヨークベニマル、ヨークマートの店頭にペットボトル自動回収機を設置しています。2015年度末現在、全国に314台設置、2015年度回収量は約4,000トンです。回収したペットボトルは国内でリサイクルされ、一部は、プライベートブランド「セブンプレミアム」の商品パッケージに活用しています。また、2015年12月よりセブン-イレブン2店舗でコンビニエンスストアでは初めて回収機を設置した実証実験も行っています。	http://www.7andi.com/dbps_data/_template/_user/_SITE/_localhost/_res/csr/pdf/2016_all.pdf CSRレポート2016 p50-51
4-1	目標4	株式会社三菱ケミカルホールディングス	グループでは、中期経営計画にサステナビリティへの貢献度合いを可視化する新たな経営指標としてMOS指標を導入している。資源の有効利用と循環推進、環境負荷低減など自社グループの企業活動を通じた定量可能なテーマを指標として策定し、進捗管理、改善を実施。	http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/kaiteki_management/download/index.html#kaiteki_report_2015 三菱ケミカルホールディングスHP KAITEKIレポート2016 P60
4-1	目標4	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	「グリーンインフラ研究会」は、グリーンインフラの考え方を社会に広め、その具体化を図ることにより、環境・文化の多様性を確保しながら、社会のレジリエンスを高め、ひとりひとりが豊かさを実感できる持続可能な社会の実現を目指しています。当社は本研究会の創設にコミットし、事務局を務めるとともに、運営委員を輩出しています。	http://greeninfra.net/
4-1	目標4	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	当社は、兵庫県立人と自然の博物館、特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワークと共同で生物多様性協働フォーラム事務局を務めている。本フォーラムは、生物多様性の保全と持続可能な利用の実現を目指して、関西各地でシンポジウムを開催し先行事例や先進的な提案を発信するとともに、ブース出展企画などにより様々な主体間のネットワーク形成を目指している。2011年より全9回開催し、2016年12月に第10回目を予定している。	http://www.murc.jp/publicity/press_release/press_161018
4-1	目標4	三菱化学株式会社	三菱化学では財務指標と同様に人と社会、地球のサステナビリティへの貢献度合いを可視化する新たな指標MOS指標を導入。MOS指標の目標を定め、達成に向け種々施策を実施 ・地球環境負荷削減への貢献 ・資源、エネルギーの効率的な利用 等	三菱ケミカルホールディングスグループ KAITEKI REPORT2016 p60
4-1	目標4	住友化学株式会社	開業から百年を迎えた住友化学グループは、次なる百年に向けてサステナブル(持続可能な)社会の実現に積極的に貢献していくため、人類の課題となっている気候変動対応や環境負荷低減、資源有効利用などに資する製品・技術(Solutions)を認定し、その開発及び普及を推進しています。	2016.11公表予定
4-1	目標4	住友化学株式会社	健康農業部門の事業や、レスポンシブルケア活動等を通じ、SDGs(Sustainable Development Goals)に貢献しています。	https://www.sumitomo-chem.co.jp/csr/management/sdgs/contents.html CSRレポート2016 p9-10
4-1	目標4	中日本高速道路株式会社	【資源の3R】当社では、工事で発生する建設副産物のリサイクルだけでなく、維持管理で発生した剪定枝や刈り草についても、堆肥やマルチング材としてリサイクルしています。また、休憩施設においては、現場で発生した石や岩を車止めに有効利用するなどし、お手洗いは、雨水や中水の利用、節水型便器を積極的に採用するなど、資源の3Rに努めています。	https://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/csr_download/NEXCO中日本レポート2016 P45
4-1	目標4	東北電力株式会社	当社は、東日本大震災による福島県沿岸部の津波被災地の復旧・復興において盛土材が不足している現状を踏まえ、原町火力の石炭灰を利用して盛土材として活用できることを確認し、地域復興の一助となるよう発電所に製造装置を設置し、製品化(「輝砂」)することとした。	東北電力HP http://www.tohoku-epco.co.jp/news/normal/1187417_1049.html

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
4-1	目標4	日本航空電子工業株式会社	廃棄物処理技術の進歩や、環境配慮(スコア3)などを視野に入れ、時代にあった廃棄物ごとの処理内容の見直しを行い、リサイクルの質的向上及び処理費用の削減、有償売却率向上の取組みを行っています。2015年度より、ゼロエミッション目標を99%から99.5%に引き上げました。	http://www.jae.com/jp/env/2016/zeroemission.html 2016年環境報告/ゼロエミッション
4-1	目標4	富士フイルム株式会社	オフセット印刷用刷版材料「CTP版/PS版」は印刷特性確保のために高純度アルミニウムが必要で、従来はアルミニウム新地金を使用してきた。アルミニウム新地金の製造には、大量の精錬エネルギーを要し、大きな環境負荷がかかることから、印刷会社や新聞社などで使用された当社「CTP版/PS版」を回収、主原材料のアルミニウムを再利用し、同じ品質のCTP版/PS版を製造する「クローズドループリサイクルシステム」を構築、運用拡大を進めている。	http://www.fujifilm.co.jp/corporate/environment/preservation/design/recycling.html
4-1	目標5	サッポロホールディングス	ポッカサッポロは、森林の保全、育成に欠かせない間伐材や製材所などから発生する端材を含めた国産材を30%以上使用した紙製飲料容器のカートカンを積極的に採用しています。国産の木質資源を積極的に活用するとともに、売上げの一部を「緑の基金」に寄付することで、日本の森林を守り育てる一助となっています。	http://www.sapporoholdings.jp/csr/earth/nature_3.html
4-1	目標7	旭硝子株式会社	「間伐に寄与する紙」を積極的に利用。環境NPOオフィス町内会が行っている「森の町内会-間伐に寄与する紙」を社内外の印刷物向けなどに購入・使用することで、健全な森林の回復に間接的に貢献しています。	http://www.agc.com/csr/env/act/biodiversity.html
4-1	目標7	株式会社 大和証券グループ本社	大和PIパートナーズにおいて、未利用材を主な燃料とする木質バイオマス発電所に参入。	http://www.daiwa-grp.jp/csr/report/pdf/2016_Sustainability_Report/16_report_24.pdf CSR報告書2016 P.24 「再生可能エネルギー発電プロジェクト」
4-1	目標7	㈱小松製作所	林業を通じた地域への貢献：コマツ栗津工場は、石川県・かが森林組合と協働して、地域林業で未利用材となっていた間伐材をバイオマスチップ燃料として利用することで、地域の林業活性化、栗津工場の購入電力及び重油削減、CO2排出削減、地場産業の活性化を行い、地方創生を目指した活動を進めている。	http://www.komatsu.co.jp/CompanyInfo/csr/environment/2016/02.html 2016年環境報告書Web
4-1	目標7	阪和興業株式会社	間伐材の有効活用について、地方自治体や県森林組合連合会などと連携を深め、間伐材の輸出促進に協力し、海外ユーザーの開拓や用途開発を実施。	http://www.hanwa.co.jp/ms/data/pdf/csr/(全ページ)環境・CSR報告書2016.pdf
4-1	目標7	凸版印刷株式会社	用紙に間伐材を含む国産材を30%以上使用した紙製飲料容器である「カートカン」や「エコフラットカップ」を製造しています。トッパンでは間伐材の積極的な利用により、国内森林保全への貢献を行っています。	http://www.toppan.co.jp/living-industry/cartocan/ http://www.toppan.co.jp/csr/environment/biodiversity.html
4-1	目標8	株式会社 高島屋	高島屋ファーム(横浜店・新宿店)のとりにくみ:自然の力を大切に、「おいしい」を集めたセレクトショップ。農業・化学肥料不使用の米や野菜等の販売を行っています。	http://www.takashimaya.co.jp/corp/csr/environment/item.html
4-1	目標8	三菱化学株式会社	三菱化学は、地球環境への貢献を目的として、温室効果ガス排出量の削減、省資源・省エネルギーの推進、大気や水、土壌などの汚染の防止、廃棄物の発生抑制・再使用・再資源化の推進、事業活動のすべての過程において環境負荷の低減に努めている。	三菱化学 CSRLレポート2015 PDF版P63~71
4-1	目標8	日本郵船株式会社	シンプリリサイクル条約で定められた、船上に存在する有害物質の量・設置場所などを記載したリストを作成し、本船への配備を進めています。当社独自の解撤方針を定め、環境だけではなく労働安全にも配慮した解撤ヤードを選定して、解撤を行っています。また、独自の解撤売船契約書を用い、引き渡し後はその契約に基づいた、安全・環境への対応状況を確認しています。	NYKレポート2016 P. 83 http://www.nyk.com/ir/library/nyk/pdf/2016_nykreport_all.pdf
5-1	目標10	タキロン株式会社	生分解性プラスチック技術を応用したサンゴ群集再生実験の取組	
5-1	目標14	三菱化学株式会社	三菱化学の各事業所で地球環境貢献への取組みを活動目標に掲げ、それぞれの事業所で独自の活動を行っている。例えば、三菱化学筑波事業所では毎年夏、執務室の窓にグリーンカーテンを生育し、涼を取る工夫を行っている。高さ3.5m×幅18m+20mの2面を生育し電力消費を約20%削減している。	三菱化学 CSRLレポート2015 PDF版p72,72
5-1	目標14	住友林業㈱	緑化事業において、生態系保全に配慮し自生種を中心とした緑化植物を「ハーモニックプランツ®」として提案している。また他社と協働した「エコアセット・コンソーシアム」などを通じ、生物多様性に配慮した都市再生、既存緑地改修、里山再生などのコンサルティング事業にも取り組んでいる。	http://sfc.jp/information/society/environment/performance/preservation/service.html
5-1	目標19	株式会社島津製作所	生物多様性を用いた新製品・新素材開発である「バイオミメティクス」に対して、分析計測機器を用いてその研究開発を支援する取組みを学会・学識経験者と共に展開している。	http://www.shimadzu.co.jp/csr/report/2016jh.html 島津環境レポート2016-p14
5-1	目標19	戸田建設株式会社	学校ビオトープでの生物多様性の創出と調査	http://www.toda.co.jp/solution/ecology/symbiosis/index.html
5-1	目標19	三井住友建設株式会社	建築物の緑化計画において生物多様性への取組みを評価するツール「いきものプラス®」を開発。また評価対象地域を東京23区圏内から南関東エリア・大阪府・愛知県に拡大し、「バージョンアップ」して機能を強化。	http://www.smcon.co.jp/2014/02267568/ http://www.smcon.co.jp/2016/021716636/
5-1	目標19	鹿島建設株式会社	都市緑化、農園整備、水辺再生、森林活用といった自然の有する防災や水質浄化、生態系サービスなどの力を積極的に活用し、施設整備や土地利用を進める環境配慮型の社会基盤整備グリーンインフラを推進	http://www.kajima.co.jp/tech/green_infra/index.html
5-1	目標4	株式会社竹中工務店	持続可能なまちづくりを目的として、雨水の貯留・浸透空間「レインスケープ」の実証を開始した。「レインスケープ」は、豪雨時に「雨水貯留・浸透空間」としてピークカットの機能を果たすだけでなく、平常時にも地上部が魅力ある植栽空間として機能し、集客力や企業価値の向上に寄与する技術dearu。さらに、水質浄化後の雨水利用の促進も図ることで、施設の付加価値向上に貢献suru。	http://www.takenaka.co.jp/news/2016/08/02/index.html
5-1	目標4	富士フイルム株式会社	化学物質の生態系への影響を把握し、生物多様性を保全するため、GLP適合確認を受けた安全性評価センターにて、社内ルール「動物倫理規則」に則り、化学物質の生態系での分解性や生物(コイ)への蓄積性を評価する試験や、生態系の水生生物(藻類、ミジンコ、魚類)への影響を評価する試験を行い、生態系への影響を幅広く評価している。さらに、動物愛護の観点から、動物実験代替法の開発等に積極的に取り組んでいる。	http://www.fujifilm.co.jp/corporate/environment/preservation/chemicalsmanagement/evaluation/03.html

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
5-1	目標6	中央開発株式会社	海域のサンゴ礁生態系、森林生態系、田園生態系、河川生態系などの保全・再生を地域の社会経済活動に組み込み、その好循環を促すような社会デザインのコンサルティングを行っている。	http://www.ckcnet.co.jp/technology/social-design/ev/
5-1	目標7	鹿島建設株式会社	都市農地と住宅が混在する都市部において、循環型農業、ミツバチプロジェクト、生き物除草など都市の様々な課題を解決するアグリビジネスを実施。地域コミュニティと連携した持続的で循環型のまちづくりを企画・提案・実施	http://www.kajima.co.jp/news/press/201511/9e1-j.htm http://www.kajima.co.jp/gallery/biodiversity/about/index-j.php http://www.kajima.co.jp/gallery/biodiversity/ikimachi/farm/index-j.html#farm_160627_01
5-2	目標1	株式会社竹中工務店	自然との共生 人と自然が共生する建築やまちづくりを目指して、2012年3月に「生物多様性活動指針」を定め、設計提案による都市域等での生物多様性保全に資する先進的な都市再開発なプロジェクトの創出を推進している。 土地利用状況評価ツールを一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)の活動で当社研究員がリーダーとして開発し、産業界に普及したり、社内でも建物の計画・設計や自社土地の評価に利用している。	コーポレートレポート2014(33頁) http://www.takenaka.co.jp/corp/report/pdf/2014/p31_44.pdf サステナビリティレポート2013(11頁) http://www.takenaka.co.jp/enviro/es_report/pdf/2013/p11_16.pdf 生物多様性 http://www.takenaka.co.jp/solution/needs/ecosystem/index.html
5-2	目標10	丸紅株式会社	洋上風力発電、大規模太陽光発電、小水力発電、地熱発電など、環境負荷の少ない再生可能エネルギーの利用・普及に、積極的に取り組んでいる。	http://www.marubeni.co.jp/csr/csv/energy/
5-2	目標13	ウシオ電機株式会社	植物に対する特定波長を照射し、効率よく育成する技術開発を農業セクターへの出資と合わせて推進している。	http://www.ushio.co.jp/csr/sr2016/feature/contribution.html
5-2	目標14	大成建設株式会社	当社独自技術「エコロジカルプランニング」は、施設の計画地を調査・分析し、その地域に最適で豊かな環境づくりを計画・実現します。10年以上のモニタリングにより、施設稼働後に鳥や昆虫の種数が増加することを統計的に確認しています。札幌ドームでの取り組みを、「札幌ドームECO MOTION」と共に、「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」、「にじゅうまるプロジェクト」に登録しています。	http://bd20.jp/dantai/detail.php?id=218 にじゅうまるプロジェクト http://undb.jp/authorization/1793/ 国連生物多様性の10年日本委員会
5-2	目標14	野村ホールディングス株式会社	●コンソーシアムへの参画 藻類によるバイオ燃料の商用利用に向けた活動・研究開発を行っている藻類関連のコンソーシアムに参画。藻類油脂や藻類バイオマスを化石資源に替わる燃料や原料に利用することで、限りある化石資源を使わず、カーボンニュートラルで地球温暖化を進めない社会の実現を目指している。	http://www.nomuraholdings.com/jp/csr/sustainable/services.html
5-2	目標15	関西電力 株式会社	弊社と株式会社環境総合テクノス、株式会社社本微生物研究所の3社が共同で、菌根菌を活用した「樹勢回復手法」と、菌根菌をはじめとする有用土壌微生物を活用した「病害抑制手法」を開発しました。	http://www.kepco.co.jp/corporate/pr/2010/0430-1j.html
5-2	目標19	(株)奥村組	当社は「公益信託 建設環境技術助成基金」を設立し、建設技術に係る環境負荷低減に関する諸研究に対し助成を行っています。平成19年から平成28年までの10年間の活動で、44件の研究テーマに助成を行いました。	http://www.okumuragumi.co.jp/environment/koueki/index.html 公益信託奥村組建設環境技術助成基金
5-2	目標19	株式会社 安藤・間	「いきものインフォ」 生物多様性に関する当社のこれまでの取り組みや関連情報などを掲載したデータベース「いきものインフォ」を社内ポータルサイトに設置しました。「いきものインフォ」には、当社の「生物多様性ガイドライン」、当社建設現場での生物多様性に配慮した取り組み事例や顧客への提案事例などが掲載されています。「いきものインフォ」は土木・建築両分野での顧客への生物多様性保全に関する提案、現場での取り組みに活用できます。	http://www.ad-hzm.co.jp/csr/csr_2016.html 安藤ハザマCSR報告書2016 p.27
5-2	目標19	株式会社 資生堂	KODAの研究	http://group.shiseido.co.jp/csr/env/diversity.html 「No.069 KODAの研究」
5-2	目標19	野村ホールディングス株式会社	●大学発新産業創出拠点プロジェクト 野村ホールディングスと野村證券は、文部科学省の「大学発新産業創出拠点プロジェクト」における「事業プロモーター」として採択されており、大学の研究開発の事業育成をサポートしている。これまでに大学院発のバイオベンチャー企業の設立を支援した。	http://www.nomuraholdings.com/jp/csr/sustainable/services.html
5-2	目標19	野村ホールディングス株式会社	●野村イノベーションマーケット 企業のニーズと大学の知的財産情報とのマッチングを行う「野村イノベーションマーケット」を運営。大学の知的財産情報をHPで紹介。生物多様性の保全に貢献するような研究に取り組んでいる大学は多数あり、企業側のニーズとの橋渡し役を担うことで、研究の事業化を支援。	http://nim.nomura.co.jp/
5-2	目標4	株式会社竹中工務店	持続可能な森林管理サイクルに寄与できる木材の活用・利用 ・高い耐火性能を有する木造部材「燃(も)エンウッド」の開発・実用化により、都市部においても大規模な木造建築の建設が可能となりました。国産木材の利活用を通して、森林サイクルの維持・拡大などに寄与する。 ・国産材の利活用を図るため、LVL(単層積層板)およびCLT(直交集成板)による「木材を活用した耐震改修工法」の技術開発・製品化と実プロジェクトへの適用を行っている。	「燃エンウッド」: http://www.takenaka.co.jp/solution/needs/wood/index.html 「木材を活用した耐震改修工法」: http://www.takenaka.co.jp/news/2015/07/01/index.html

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
5-2	目標4	味の素株式会社	<持続可能なカツオ漁業と資源利用への取組み> ・(国研)水産研究・教育機構国際水産資源研究所との協働調査事業「太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査」	「味の素グループ サステナビリティデータブック2016」 http://www.ajinomoto.com/jp/activity/csr/pdf/2016/kankyuu.pdf
5-2	目標5	中央開発株式会社	建設事業による自然環境への影響を低減・回避し、自然環境を復元・再生するための環境コンサルティングを行っている。	http://www.ckcnet.co.jp/technology/social-design/ev/
5-2	目標5	中央開発株式会社	生物の生息・生育のための基盤である地形・地質・土壌などの資源の調査とその保全・再生、利活用についてコンサルティングを行っている。	http://www.ckcnet.co.jp/technology/design/soil-pollution/ http://www.ckcnet.co.jp/technology/social-design/geopark/
5-2	目標7	アサヒグループホールディングス株式会社	当社は「酵母細胞壁」を活用した農業資材の開発に着手した。試作した農業資材で稲・馬鈴薯・小麦・大豆・りんご等を国内外で試験をし、収穫量が従来の2倍以上に達することが分かった。今後、この農業資材を国内、東南アジアをはじめ世界規模での展開を目指し、農作物の生産性向上による持続可能な食料生産を実現するとともに、化学農薬の使用削減に結びつけ、生物多様性を確保した環境保全型農業に貢献していきたいと考えている。	http://www.asahigroup-holdings.com/news/2016/0418.html
5-2	目標7	日本水産株式会社	ぶりの人工種苗生産による事業化を確立し、天然資源への負荷を低減している。	http://www.nissui.co.jp/social/environment/products.html
5-2	目標7	日本水産株式会社	「資源の持続的な利用について」をホームページに掲載している。	http://www.nissui.co.jp/social/environment/resource.html
5-2	目標8	イオン株式会社	トップバリュ グリーンアイ:自然の恵みから生まれた素材を活かし、人と環境にやさしい商品「トップバリュ グリーンアイ」を開発、3シリーズ構成。①トップバリュ グリーンアイオーガニック:農薬や化学肥料などを使用しない有機栽培を行い、公的なオーガニック認証を受けている商品。②トップバリュ グリーンアイナチュラル:化学合成された薬品や飼料の使用を可能な限り抑えて生産・飼育開発された商品。③トップバリュ グリーンアイフリーフォーム:お客さまが購入の際に気にされる添加物と原材料の中の109種類※に配慮して開発した加工食品。	http://www.aeon.info/news/2016_2/pdf/161110R_3.pdf
5-2	目標8	日本ガイシ株式会社	自動車排ガス浄化用セラミックス製品(ハニセラム、DPF、Noxセンサー)の開発・普及	http://www.ngk.co.jp/csr/web/environment07.html
5-2	目標8	日本化薬株式会社	クリーンエコテクノロジー(CET)プロジェクト	2014年CSR報告書P.4、P.5 http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/report/pdf/2014/web_jp3-5.pdf
5-3	目標11	いであ株式会社	自然環境に関わる技術コンサルタントとして、生物多様性上重要な土地を特定し、効率的に保全することを目的とした、生物・生態系に関する統計モデルの技術開発等を行っています。	GIS環境解析によるクマタカ営巣可能性評価システム http://ideacon.jp/technology/leaflet/e1-08_hawk-eagle.html
5-3	目標11	ソニー(株)	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)幸田サイトは、1972年の創立当時から「緑豊かな公園工場」を目指し、敷地内の自然林を「ソニーの森」として保全しています。2008年からはフクロウが飛翔できる空間や餌場、巣箱の設置などの活動を行い、2016年にはフクロウが営巣し、雛が3羽生まれました。フクロウを頂点とし、メジロなどの小鳥、タヌキやネズミなどの小動物が生息する豊かな生態系を築いています。	http://www.sony.co.jp/SonyInfo/csr_report/environment/site/biodiversity/koda.html http://www.sony-global-mo.co.jp/csr/index.html
5-3	目標14	旭化成株式会社	自然と人を結ぶ庭づくり:『まちもり』計画	http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/environment_special001_2016.html/
5-3	目標15	いであ株式会社	自然環境に関わる技術コンサルタントとして、生物多様性を効果的に保全・再生するための技術開発を行っています。	サンゴ礁の再生と創造ー連結式着床具によるサンゴ種苗移植ー http://ideacon.jp/technology/leaflet/e3-12_coral.html
5-3	目標15	キヤノン株式会社	シンガポール、インド、タイ、フィリピン、ベトナムなど、アジア各地のグループ会社で植林活動を継続的に展開しています。ベトナムでは、2015年に現地政府や地方人民委員会などと協力して「For a Green Vietnamプロジェクト」を実施。14万5,000本の植林活動を行いました。	http://web.canon.jp/csr/report/pdf/canon-sus-2016-j.pdf キヤノンサステナビリティレポート2016 p66
5-3	目標15	ヒューリック株式会社	【敷地内緑化・壁面緑化】オフィスビルの緑化においては、景観の向上や立地条件を勘案し手入れが簡単で強風に強い植物を中心に選定しています。緑化計画にあたっては緑あふれる都市空間を創造するとともに、生物多様性に配慮し自然との調和を目指しています。	http://www.hulic.co.jp/csr/ecology/communication/communication.html CSRレポート2016p.26
5-3	目標15	ヒューリック株式会社	【都市開発版SEGES認定】品川シーズンテラスが、ふれあいやにぎわいを生み出す約3.5haの広大な緑地の創出が高く評価され、公益財団法人都市緑化機構による「社会・環境貢献緑地評価システム(SEGES)」において、「緑の保全・創出により社会・環境に貢献する開発事業(都市開発版SEGES)」として2014年度に認定されました。	http://www.hulic.co.jp/csr/ecology/communication/communication.html CSRレポート2016p.26
5-3	目標15	横浜ゴム株式会社	潜在自然植生に基づいた植樹活動を国内外のほぼすべての事業所で実施している。YOKOHAMA千年の杜プロジェクトを2007年から継続して実施している。本プロジェクトでは事業所敷地内に合計50万本の木を植樹することを目標にしている。また、地域への苗木の提供を行い、地元の植物での緑の回廊づくりにも寄与している。	http://www.yrc.co.jp/csr/mori/
5-3	目標15	株式会社島津製作所	京都の本社・三条工場内に8,000m ² の緑地帯を整備し、公益財団法人日本生態系協会が開発・運営し、生物多様性の保全や回復に資する取り組みを客観的に定量評価するハビタット評価認証(JHEP認証)において、最高ランクのAAA評価を取得している。	http://www.shimadzu.co.jp/csr/2015_f3.html 島津環境・社会報告書2015-p20

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
5-3	目標15	株式会社日立国際電気	宮城県沿岸部の震災ガレキを活用して築いた丘陵地に、従業員が防災林を植樹するプロジェクトにボランティア参加し、生態系の復元に貢献している。	http://www.hitachi-kokusai.co.jp/csr/creatures/index.html
5-3	目標15	関西電力 株式会社	発電所では自然に近い森を短期間でつくるため、地域に適した植栽樹種の苗木を選定し、密植・混植しています。形成した森では外来種駆除を行い、地域本来の生物多様性を守るための環境づくりに努めています。	関西電力グループレポート2016 P48 http://www.kepco.co.jp/share_corporate/pdf/report2016.pdf
5-3	目標15	関西電力 株式会社	当社は自社の自然環境資源を環境教育や地域との連携・交流に活用することを目的として、発電所にビオトープを造成してきました。兵庫県の奥多々良木発電所のビオトープでは貴重なモリアオガエルの産卵を確認することができます。	http://www.kepco.co.jp/sustainability/kankyuu/report/region/seibutsu03.html
5-3	目標15	三井不動産株式会社	当社で運営する「NEMU HOTEL & RESORT」では志摩市が提唱する「稼げる・学べる・遊べる、新しい里海」の考えのもと、三重県水産研究所の技術支援を受け、2012年度から園内の約2haの沿岸遊休地の干潟再生事業を進めている。	http://www.mitsui-fudosan.co.jp/corporate/csr/2016/pdf/mf_csr2016_full_02.pdf (品質-09)
5-3	目標5	レンゴー株式会社	事業所/工場敷地内でのビオトープ造成 自然と親しみ生物多様性の重要性を考える機会の提供として、工場にビオトープを設置し、地元の団体と協働で蜚の生育を行っている。	環境・社会報告書2016 34頁参照
5-3	目標5	株式会社豊田自動織機	愛知県が主導する、県内全域での生態系ネットワーク形成事業と連携し、生物の生息空間を緑地などでつないで、地域本来の自然環境の創出に貢献(大府市内遊休地)	https://www.toyota-shokki.co.jp/csr/environment/management/diversity/index.html
6-1	目標1	エイピーピー・ジャパン株式会社	2014年APPは自然林伐採停止に加えて、自社植林地と同等規模の「100万ヘクタールの熱帯雨林の保護・再生」を支援すると表明しました。現在、地元政府とNGO、地域社会など多くのステークホルダーとともに活動を開始しています。	2015年CSR報告書
6-1	目標1	エイピーピー・ジャパン株式会社	スマトラ島の絶滅危惧種であるスマトラ象の保護活動をWWFインドネシアなどの関係者と共に行っています。現在の対象地域はリアウ州のGSKとジャンビ州のプキット・バツ国立公園の景観地域です。	2015年CSR報告書
6-1	目標1	オリンパス株式会社	企業と地域の交流を深め新しいかたちの森林づくりをめざす、長野県の森林(もり)の里親促進事業に賛同し、辰野町および門前山林組合と「森林(もり)の里親」協定を締結しました。2014年度以降、春と秋の年2回、長野事業場の従業員と家族、地域住民が協力し、遊歩道の整備などの森林整備活動を実施しています。	http://www.olympus.co.jp/jp/csr/involvement/contribution/global/index.jsp
6-1	目標1	オリンパス株式会社	海の自然に目を向け、親しみ、ふれあいを深めること、そして海の環境問題を考えるきっかけ作りとして「未来に残したい海プロジェクト」を2011年に開始しました。NPO法人OWSと協働し、小中学生を対象にした「海辺の生き物観察&カメラ教室」やクラフト教室、「未来に残したい海」をテーマとした子どもフォトコンテストを毎年実施しています。また、NPO法人美ら海振興会の協力のもと、沖縄における珊瑚の植付を実施しています。	http://www.ows-npo.org/olympus/index.html
6-1	目標1	日本テクノ株式会社	年1回、沖縄県の県や市が開催するビーチ清掃に参加し、ビーチの清掃を行なう事で、水質汚染の防止を行い生物多様性の価値及び保全活動を行なっています。	
6-1	目標10	積水化学工業株式会社	連結売上高に占める環境貢献製品の売上高比率を2016年度に50%以上に拡大することを環境中期計画の目標に掲げています。2015年度は、太陽光発電システム搭載住宅の好調や環境貢献製品の品目増加によって、売上高比率の年度目標の44.3%を達成しました。	2016年CSRレポートp21、資料編p9
6-1	目標11	清水建設株式会社	他地域の植栽樹木による遺伝的なかく乱、遺伝的多様性の減少を防ぐため、植栽によく使われる3種の樹木(イロハモミジ、ヤマザクラ、ヤブツバキ)を対象として、中部大学応用生物学部と共同で、遺伝子解析による判別手法を開発。植栽樹木の由来調査(スクリーニング)に基づく供給体制やトレーサビリティの確立を目指している。	http://www.shimzu.co.jp/csr/environment/report/report2014.html シミズCSR報告書2014 p42
6-1	目標11	東レ株式会社	社会貢献活動を通じた生物多様性保全を進めている。荒川クリーンエイドを開催し、NPO法人「荒川クリーンエイドフォーラム」から生物多様性を含む環境保全教育を受講後、「調べるゴミ拾い」を継続しています。	東レグループCSRレポート2016(P75)で公開
6-1	目標12	トヨタ自動車株式会社	・自然共生の分野で、さまざまなグローバル団体とも協働し、社会を大きく牽引できるようなプロジェクトや、新しい価値を創造し、世界の環境活動が進むようなプロジェクトを率先して立ち上げ、社会全体を牽引する「Toyota Today for Tomorrow Project」を推進しています。	同上
6-1	目標12	パナソニック株式会社	市民ネットワークとの連携で希少種を保全 パナソニックエコリレージャパンとして保全活動 淀川のイタセンバラ(国の天然記念物)の野生復帰活動に参画し、NPO・市民団体などと連携 2015年7月日本水大賞で、環境大臣賞受賞	同上 P63
6-1	目標12	王子ホールディングス	国内外の社有林において、絶滅危惧種(高山植物、魚類イトウ、鳥類ヤイロチョウ、キウイ、ムトン等)、希少植物(スズラン)の保全活動をNPO等と協働で推進している。	”王子グループレポート2016”P42
6-1	目標12	(株)日本触媒	兵庫県において、当時絶滅の危機にあった「ノジギク」を、1972年から、製造所の緑化ヤードで栽培しています。現在では、毎年、3万株の苗を、自治体・学校等約300団体に配布しています。	ホームページ内「CSR活動」 http://www.shokubai.co.jp/ja/csr/society/index.html CSR報告書2016 P19
6-1	目標12	三菱重工業株式会社	当社グループは、認定NPO法人アースウォッチ・ジャパンの主催する「種子島のアカウミガメ調査」を2015年度より支援しています。アカウミガメは、世界的に絶滅が危惧されており、種子島は日本で2番目にアカウミガメの産卵が多い地域でありながら、これまで保全の個体識別調査がほとんど行われてこなかったため、種子島での調査がアカウミガメの生態の解明と保全に繋がることが期待されます。この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が推奨する事業として認定を受けています。	http://www.mhi.co.jp/csr/esg/environment/management/management04.html
6-1	目標15	株式会社 高島屋	ローズセレクション(カタログ型ギフト)における社会貢献ギフトの展開:①NPO法人ドングリの会(広葉樹の森を育て、緑の地域へ)②公益法人オイスカ(東日本大震災により被害を受けた海岸林再生プロジェクトの一環として育苗を通じた農家の支援等)	http://www.takashimaya.co.jp/shopping/special/0900006710/

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
6-1	目標15	積水化学工業株式会社	滋賀栗東工場では、滋賀県が主導する「魚のゆりかご水田プロジェクト」に工場が発生する合成木材の端材を、魚を水田に呼び戻すための魚道等の部材として提供し、地域自治体と協働して琵琶湖の生物多様性保全活動を行っています。2015年度はこの活動が認められ、日本自然保護協会主催の「日本自然保護大賞(企業・団体リーダー部門)」、環境省主催「グッドライフアワード(環境と企業)特別賞」などを受賞しました。	2016年CSRレポートp23
6-1	目標19	(株)ニコン	「赤谷プロジェクト」への支援: 2005年から、生物多様性復元と持続可能な地域づくりに向けて国と地域住民、自然保護団体が協働して取り組む「赤谷プロジェクト」を支援しており、公益財団法人日本自然保護協会に調査・記録用機材を提供しています。	http://www.nikon.co.jp/sustainability/contribution/earth/akaya-project/index.htm
6-1	目標19	アジア航測株式会社	【地域との協働】アジア航測は、当社が有する環境や防災技術や知識を地域の防災意識・自然環境保全意識の向上に活かすため、環境教育活動、自然環境保全活動を推進しています。2015-2016年の活動では、本社のある神奈川県川崎市での環境・防災講座の実施、群馬県みなかみ町でのNPOと協働した森林保全活動等を実施しました。	http://www.ajiko.co.jp/article/list/GT3/SC2/CSRレポート2016p22-26
6-1	目標19	キヤノン株式会社	キヤノンUSAは、米国ワイオミング州のイエローストーン国立公園に資金を提供し、野生動物保護の調査活動を支援しています。とくに、教育・研究プログラム「Eyes on Yellowstone」では、キヤノンの映像機器を使用して生態観察を行い、映像ライブラリーをデジタル化してWebサイトで配信。この映像は、世界中の数百万人におよぶ子どもたちに教材として利用されています。	http://web.canon.jp/csr/report/pdf/canon-sus-2016-j.pdf キヤノンサステナビリティレポート2016 p64
6-1	目標19	ミサワホーム株式会社	全国の学校生活共同組合や教育関連団体と連携し、極地研究所の協力を得て教育支援プログラム「南極クラス」を開催。	www.misawa.co.jp/corporate/csr/ 2016年CSRレポートp35
6-1	目標19	中央開発株式会社	社員の自主的な自然環境の保全に関する社会貢献活動を技術的に支援している。	
6-1	目標19	東京急行電鉄株式会社	当社は、「とうきゅう環境財団」を通じ、主な事業地域を流れる多摩川およびその流域における環境浄化・保全に関する調査研究やその援助、行政への協力、広報活動などを実施しており、研究助成に関しては1975年度～2015年度までに1,188件、総額14億4千万円を助成しています。	「東急グループ 学校法人・財団の活動」サイト http://tokyugroup.jp/about/pdf/ja_pamph_foundation.pdf
6-1	目標2	(株)小松製作所	①「コマツの生物多様性宣言」「コマツの生物多様性ガイドライン」制定 ②「おおさか生物多様性パートナー協定」締結 : 大阪工場、大阪府、大阪府立大学、大阪府立環境農林水産総合研究所、枚方市 ③物流の生物多様性取り組み : 森林保護の観点で木材・ダンボール梱包材の削減を重点課題として改善活動実施している。	http://www.komatsu.co.jp/CompanyInfo/csr/environment/2016/32.html 2016年環境報告書Web
6-1	目標20	カシオ計算機株式会社	G-SHOCKとBABY-Gは「Love The Sea And The Earth」というテーマのもと、「アイサーチ・ジャパン」(国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)と「アースウォッチ・ジャパン」のふたつの環境保護団体の活動を、これらの団体の協賛モデルを通して支援しています。	http://www.casio.co.jp/csr/env/biodiversity/
6-1	目標6	株式会社 熊谷組	・「生物多様性への取り組み」についての環境省地球環境審議官との意見交換会開催(2015.01.29 於環境省) ・生物多様性シンポジウム「ナチュラビオ・技術」の事例発表及びパネルディスカッション参加(2016.05.30 経団連自然保護協議会主催)	CSR報告書2015p34 CSR報告書2016p40
6-1	目標6	株式会社三菱ケミカルホールディングス	輸入合板代替製品で生物多様性に貢献する。 2016年度生物多様性アクション大賞「えらぼう部門優秀賞」受賞。	http://5actions.jp/award2016/result.html 生物多様性アクション大賞2016HP
6-1	目標7	マツダ株式会社	2010年に広島県と森林保全活動に協力する「森林保全・管理協定」を締結し、広島県緑化センター(広島市東区)内の「マツダの森(愛称)」を中心に地域の森林保全活動に協力している。また同時に「ひろしま森林(もり)づくりフォーラム」に加入し、広島県内の森林関係団体などと連携し「企業の森づくり」を推進している。また、山口県では県が主催する「企業との協働による水源の森づくり」の活動に参加している。	マツダサステナビリティレポート2016【社会貢献版】(「地域の森林保全活動に協力:P7、P14」) http://www.mazda.com/globalassets/ja/assets/csr/download/2016/pdf/2016_s_all.pdf
6-1	目標7	新日鐵住金株式会社	当社は、福島県相馬地域において東日本大震災に伴う津波被害農地の除塩対策に取り組まれる東京農業大学に対して、復興支援の観点で踏まえ、転炉スラグ肥料を約20トン無償提供し、研究に協力して参りました。2011年5月よりイチゴハウス、同年9月より水田1.7haに対して転炉スラグ肥料を施肥した結果、同肥料が迅速かつ効率的な除塩に極めて有効な方法であることが実証され、相馬方式(東京農大方式)を確立しています。	http://www.nssmc.com/product/slag/index.html http://www.nssmc.com/news/20130308_100.pdf
6-1	目標7	大栄環境株式会社	社有林における皆伐の原則廃止と森林構造の複雑化(近自然化)に向けた試験施業	2016年環境報告書 P.17
6-1	目標7	日本製粉株式会社	JA全農あきたが米粉用米を低農薬で栽培することに賛同し、農家の皆さんと田んぼの生きもの調査を継続して行っています。	http://www.nippon.co.jp/csr/report/ 2015年CSR報告書Web版p10
6-1	目標7	富士通株式会社	マルチセンシング・ネットワーク活用によるブドウ栽培支援: 社員とその家族の農業体験にご協力をいただいている、山梨県甲州市のブドウ農園に対し、ブドウ畑の温度・雨量・湿度データを自動収集するシステムを提供し、農薬散布の回数削減と生物多様性保全に貢献しています。	http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/activities/case-studies/technology/winefarm/index.html
6-1	目標9	伊藤忠商事株式会社	京都大学野生動物研究センターがブラジルの国立アマゾン研究所と進めるアマゾンの熱帯林における生態系保全プログラム「フィールドミュージアム構想」を2016年度から支援	https://www.itochu.co.jp/ja/csr/social/amazon/index.html
6-1	目標9	伊藤忠商事株式会社	WWFがボルネオ島サバ州政府森林局と連携し、約2,400ヘクタールの森林再生活動を行っており、伊藤忠グループはそのうちの967ヘクタールの再生を支援	https://www.itochu.co.jp/ja/csr/social/150_anniversary/borneo/index.html
6-1	目標9	伊藤忠商事株式会社	ケニアの植林活動である「グリーンベルト運動」にキザニアに入場する年間約3人の子ども達が弊社のアクティビティに参加し、累計で約12万本の苗木に相当する費用をケニアに寄贈	https://www.itochu.co.jp/ja/csr/environment/biodiversity/

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
6-2	目標1	三井住友海上火災保険株式会社	企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)は、2008年4月に設立され、企業が直面する生物多様性に関する問題について研究しているが、当社はJBIBの会長会社としてJBIBの活動に積極的に参加し、推進している。毎年、このJBIBの特別協力を得て、企業が生物多様性の取り組みを行うための啓発活動としてシンポジウム「企業が語るいきものがたり」を開催している。	http://www.ms-ins.com/company/csr/environment/maintenance/
6-2	目標1	三井住友海上火災保険株式会社	2012年5月、三井住友海上駿河台新館のオープンにともない、新館敷地内に、地域に開かれた環境コミュニケーションスペース「ECOM駿河台(エコムスルガダイ)」を開設した。環境や自然に関するさまざまな情報を発信し、また、環境や自然、社会貢献に関するイベントを開催し、地域の皆様と交流する場として活用している。	http://www.ms-ins.com/company/csr/ecom/
6-2	目標1	住友ベークライト株式会社	当社グループは、環境負荷を低減するだけでなく工場における動植物の生育環境を整えることで生物多様性の保全に寄与できると考えており、1つの取組みとして静岡工場では地域における生物多様性価値が高いと判断し2012年度から5年計画でビオトープの造成を進めています。2015年度は社内に向けた観察会以外にお客さま等の視察・公開を行い、今後も地域と連携したイベントも検討するなど社外とのコミュニケーションの場として積極的に活用していこうと考えています。	CSRLレポート2016 http://www.sumibe.co.jp/csr/index.html
6-2	目標1	清水建設株式会社	当社技術研究所内に2006年に設置した都市型の大規模ビオトープ「再生の杜」では、10年間のモニタリングの結果、植物種数が当初の200種から296種に増加。魚類総数は当初から2.5倍に増加。昆虫類、鳥類も安定的に飛来、採餌、繁殖を行うなど、都市部の人工的な緑地が生物生息環境を着実に形成。これまでに延べ16000人の見学者が訪れた他、毎年、再生の杜を産卵・子育ての場としているカルガモや、魚を食べるカワセミの動画などをWEBで公開中。	http://www.shimz.co.jp/news_release/2016/2016020.html http://www.shimz.co.jp/theme/sit/biotope.html#animation
6-2	目標12	三菱重工業株式会社	当社グループでは、一般の方を対象として理科授業「ロケット打上げとウミガメのつながり」を、三菱みなとみらい技術館で開催しました。午前の部には92名、午後の部には52名の方にご参加いただきました。種子島でのアカウミガメ保全調査の主任研究者であり、IUCN(国際自然保護連合)種の保存委員会Marine Turtle Specialist Group副議長としてアカウミガメの絶滅危険度の評価にも携わる松沢慶将先生を講師に招き、生物多様性とは何か、宇宙開発とウミガメのつながり等についてお話いただきました。	https://mhi.co.jp/news/story/csr160223.html
6-2	目標19	アジア航測株式会社	【自然災害発生時の情報提供】アジア航測は、自然災害発生時に、被災エリアの空中写真自主撮影を行い、関係機関等への情報提供を行っています。2015年は阿蘇山噴火など4件、2016年は熊本地震など2件の空中写真撮影を行い、被災地への情報提供を行いました。また、エコファーストの一環として、2013年から2020年までの計画で、東日本大震災での被災エリアのモニタリングを行っています。	http://www.ajiko.co.jp/csr/ecophoto.html CSRLレポート2016p33-p43
6-2	目標4	いであ株式会社	生物多様性についての専門のコンサルティングサービスを提供する部署を設置し、企業による生物多様性の保全と持続可能な利用について、基本的な考え方や取組の事例について調査・研究を行い、要請があった場合には研修会等での発表、企業への支援業務を行っています。	生態系サービスを支える社会づくりー生物多様性の主流化ー http://ideacon.jp/technology/inet/vol44/vol44_tops.pdf
6-2	目標4	カシオ計算機株式会社	2016年度から、電機・電子4団体の生物多様性ワーキンググループに参加しました。WGの活動を通じて生物多様性保全に貢献するとともに、当WGに参加している先進企業の活動を参考にしつつ、生物多様性の取り組みの活動の幅を広げていきます。	http://www.casio.co.jp/csr/env/biodiversity/
6-2	目標4	住友商事株式会社	鉱山開発における生物多様性の取り組みを「生物多様性の民間参画に向けた日本の取組」第2版に公表、更に他の事例も合わせ「生物多様性民間参画シンポジウム in 大阪」(2015年8月27日)で講演	(環境省HP参照) http://www.env.go.jp/press/101230.html
7-1	目標1	イビデン株式会社	イビデンの森に関する活動の一環として、従業員、OB・OG、地域住民・学生を対象に参加者を募り、環境保全の体験の場としている。また、新入社員研修の一環としても森林整備活動を取り入れている。	http://www.ibiden.co.jp/csr/report/pdf/report16_07.pdf 51ページ
7-1	目標1	キヤノンマーケティングジャパン株式会社	「未来につなぐふるさとプロジェクト」の実施 国内7地域でNPOなどと連携し、生物多様性の啓発・保全活動を展開しています。2015年は35回のボランティア活動を実施し、622名の従業員と家族が参加しました。2016年10月に、UNDB-J連携事業に認定されました。	http://cweb.canon.jp/csr/furusato/index.html
7-1	目標1	セコム株式会社	社員への啓発活動 社内イントラネットを活用した環境のホームページ・SECOMのECOでは、「生物多様性」についてわかりやすく解説するページを設置したり、クイズなどを出题して社員に興味を持ってもらうよう工夫しています。	セコムWebサイト CSRの取り組み>地球環境とともに < http://www.secom.co.jp/corporate/csr/report/hozen4.html >
7-1	目標1	ダイハツ工業株式会社	社員とその家族による生物調査 滋賀工場内のビオトープにおいて、春と秋の年2回調査会を実施しました。事業所内に生息する生物を観察することにより、生物多様性保全に対するマインド醸成を行っています。	
7-1	目標1	ダイハツ工業株式会社	事業所内生物調査 専門家と協力し、事業所内に生息する生物を1年という時間をかけて調査しました。調査結果については、今後CSR報告書で報告予定、社内に向けて、自社事業所内に生息する生物についての情報を発信していくことで、生物多様性啓発を行っています。	
7-1	目標1	ミサワホーム株式会社	「ミサワオーナーの森 釧路町」(北海道釧路郡釧路町)や「ミサワホームの森 松本」(長野県松本市川奈)及び「MISAWAオーナーの森 宮城」(宮城県宮城県利府町)での森林保全活動	www.misawa.co.jp/corporate/csr/ 2016年CSRLレポートp36
7-1	目標1	横河電機株式会社	生物多様性、環境保護に関するボランティア「横河グリーン・ボランティア」による活動を2016年度より開始した。現在は、社員教育の段階であり、将来は、地域住民とともに生物多様性についての学習や保護活動の実施を目指している。	
7-1	目標1	花王株式会社	鹿島工場では、1980年の操業開始時から、在席した全ての人が工場です仕事をした証として、地域に生息する樹木や県木等から好きな木を選び植樹してきました。35年の長きにわたり保全を続けてきたこの森に生物多様性視点の様々な活動を導入したことが総合的に評価され、2015年、「第4回いきものにぎわい企業活動コンテスト」の環境大臣賞を受賞しました。	http://www.kao.com/jp/corp_news/2015/20151027_001.html

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
7-1	目標1	株式会社イトーキ	大阪府アドプトフォレスト制度を活用した「イトーキの森」で間伐した木材を使って、家族見学会で従業員や従業員の家族向け、また第13回かわさきサイエンスチャレンジや中央区子どもとためず環境まつりに参加し、お子様に間伐体験を通して森林保全の環境教育を実施	http://www.itoki.jp/topnews/2016/08/topnews160804.html 「環境への取り組み」～イトーキ社員とその家族に向けて環境教育の実施 http://www.itoki.jp/topnews/2016/09/topnews160926.html 第13回かわさきサイエンスチャレンジに初参加
7-1	目標1	三井不動産株式会社	当社グループ会社所有の保有林で社員参加の植林研修(1回/年)を実施。	http://www.mitsufudosan.co.jp/corporate/csr/2016/pdf/mf_csr2016_dg_05.pdf
7-1	目標1	新菱冷熱工業株式会社	生態系保全活動・啓発プログラム「環境ルネサンス活動」この活動は、生態系保全や環境教育に関わる活動を行った社員に図書カードを支給し、環境に関する書籍の購入を補助し、生態系保全への理解と継続的活動への意欲向上を目指します。また、1年間に支給した図書カード費の同額を、国際環境NGOに寄付するマッチングギフト制度となっております。	http://www.shinryo.com/csr/ebook/index.html#page=27
7-1	目標1	中日本高速道路株式会社	【環境コミュニケーション】当社では、お客様や地域の皆さまとの環境を通じたコミュニケーションを大切に、地元の学生や企業の皆さまと一緒に地域性苗木の植樹を行っています。高速道路の敷地だけでなく、鹿の食害や登山者の踏圧で裸地化が進む丹沢山地や、緑地が減少している名古屋市内など、高速道路以外の場所においても植樹を行い、自治体や地元NPOの皆さまとの連携・協力を努めています。	https://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/csr_download/NEXCO中日本レポート2016 P46
7-1	目標1	東京急行電鉄株式会社	環境活動や環境負荷低減への意識の底上げを狙いとして、東京商工会議所が主催する「環境社会検定試験(eco検定)」の受験を推奨しており、2008年の第5回試験から合格者に対して受験料・テキスト代の補助を行っています。これまでに100人を超える合格者が誕生しました。	当社「環境報告書2016」サイト(該当ページ) http://www.tokyu.co.jp/csr/tkk_kankyo/kankyo_1_4.html
7-1	目標1	日立金属株式会社	e-ラーニングやイントラネットを活用した知識教育	-
7-1	目標14	セコム株式会社	エコツアーの推進 セコムグループ社員の福利厚生を担当する株式会社ワンダードリームと協力して社員向けの「エコツアー」の紹介の取り次ぎを行っています。このエコツアーをさらに推進するため、社内イントラネット上に特集「エコツアーに出かけよう」設置しました。	セコムWebサイト CSRの取り組み > 地球環境とともに < http://www.secom.co.jp/corporate/csr/report/hozen4.html >
7-1	目標15	株式会社リコー	社員の自主的な環境ボランティア活動の推進。	http://www.ricoh.com/ja/ecology/biodiversity/contribution/04_01.html
7-1	目標15	(株)日本触媒	砂漠の緑化をめざして、毎年、中国の内モンゴル自治区で、社員のボランティアによる植林を行っています。これまでの9年間で1000本を超える木を植えました。	ホームページ内「CSR活動」 http://www.shokubai.co.jp/ja/csr/society/index.html CSR報告書2016 P18
7-1	目標15	富士通株式会社	熱帯雨林再生活動：当社グループは2002年からボルネオ島のマレーシア サバ州にある「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」で、熱帯雨林再生プロジェクトに取り組んでいます。社員とその家族、現地ステークホルダーの方々など、これまでにプロジェクトに関わってきた人数は延べ1600人以上に上ります。	http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/activities/case-studies/global/rainforest/index.html
7-1	目標15	北陸電力株式会社	北陸3県5地区で森林保全活動「水の恵みをありがとう！森に恩返し活動」を展開。水源涵養や土砂崩れ防止等の恩恵を与えてくれる森林に感謝し、従業員と家族が中心となり、苗木の植樹や下草刈り等を実施。	http://www.rikuden.co.jp/kankyo-environment/biodiversity.html
7-1	目標19	(株)東海理化	◆環境講演会 経営層や上級職、環境に携わる関係者を対象に「生物多様性」をテーマにした講演会を開催しました。 企業が生物多様性に取組む目的やメリットを明確にし、自然・地域との共生に向けた取組みの理解を深めました。	-
7-1	目標19	(株)小松製作所	①生物多様性に配慮した取り組みの評価：企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)が開発した「土地利用通信簿」と「いきものモニタリングシート」を活用して活動の見える化を図ろうと検討。 ②各事業所での取り組み事例紹介：ビオトープ整備(小山工場、コマツNTC、郡山工場)、池の調査(コマツキャストックス)	http://www.komatsu.co.jp/CompanyInfo/csr/environment/2013/pr-36.html 2013年環境報告書Web
7-1	目標20	ヒューリック株式会社	【従業員による里山保全活動】毎年、当社は、東京都環境局が主催する東京グリーンシップ・アクションに参加し、NPO法人横沢入タンボの会のご指導の下、あきる野市横沢入で稲刈り体験、山すその雑木・雑草の伐採などのボランティア活動を実施しています。生物多様性についても学ぶ良い機会となっております。	http://www.hulic.co.jp/csr/ecology/communication/communication.html CSRレポート2016p.30
7-1	目標4	三菱電機株式会社	「みつびしでんき野外教室」：2006年10月から、社員がリーダーとなり、親子を身近な自然に誘い、五感で生きもののつながりを感じる教室を開く教育活動を、全事業所で進めています。自然に親しむことで、暮らしと事業が生物多様性から受ける恩恵や、与える負担を意識し、環境負荷低減への決意を新たにします。	http://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/environment/policy/naturalsymbiosis/class/index.html
7-1	目標5	ソニー(株)	ソニーネットワークコミュニケーションズは、長野県にある「So-netの森」において、地球環境と共生し、その保全に努めることを目的に、2010年より森林整備活動を行っています。「So-netの森」は、(1)身近な自然を育み、次世代へ維持・継承していくための活動の場、(2)環境保全や生物多様性について改めて考える場と位置づけています。	http://www.sonynetwork.co.jp/corporation/csr/mori/

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
7-1	目標5	株式会社 資生堂	日本各地での植林・保全活動(長崎県五島列島、和歌山県)	http://group.shiseido.co.jp/csr/env/diversity.html 「No.070 資生堂 椿の森」植林・保全活動 「No.089 「TSUBAKI」の原料産地 長崎県五島列島にて、第5回椿の植林・保全ボランティア活動を行いました」
7-1	目標5	株式会社 資生堂	海外での植林・保全活動(中国、タイ)	http://group.shiseido.co.jp/csr/env/diversity.html 「No.033-2 タイにおける植林活動」 「No.053 中国甘肅省にて第9回の植林活動を実施しました」
7-1	目標9	日本精工株式会社	■工場のある市にあるNPOの指導のもと、市内緑地保全地区で、自然観察会や緑地保全活動を実施している。(市と緑地保全活動に関する協定書も16年度中に締結予定)	2016年CSR報告書掲載予定
7-2	目標1	(株)アレフ	外来種セイヨウオオマルハナバチ不使用の生産者依頼と野外における駆除活動・市民への普及啓発	
7-2	目標1	(株)八十二銀行	◆平成24年度に長野県から、戸隠森林植物園内の森林学習館のネーミングクライツ(命名権)を取得し、名称を「八十二森のまなびや～ecology Bank82 戸隠森林館～」とし、生物多様性の教育の場として活用されています。平成28年度は、「山の日」制定に合わせ、親子向けに「戸隠 森の体験会」を長野県と共催で開催しました。	「八十二レポート 2012.9」 P21 http://www.82bank.co.jp/ct/other00008900/ki_pdf_82report201209.pdf
7-2	目標1	JXエネルギー株式会社	環境対応商品の開発・販売	http://www.noejx-group.co.jp/ecoproducts/standard.html
7-2	目標1	アサヒグループホールディングス株式会社	アサヒグループの「生物多様性宣言」に示された3つの基本方針と9つの行動指針を具体的に実施するために、社有林「アサヒの森」の森林生態系に関するモニタリング調査を平成14年・21年そして22年～24年にわたり実施しました。この数回の調査結果を基に、適切な森林管理が生物多様性の保全の上でも重要な役割を担っていることを示し、情報発信に役立ててまいります。	http://www.asahibeer.co.jp/asahi_forest/summary/profile/bioreport.html
7-2	目標1	いであ株式会社	当社は生物・生態系に関わる調査・解析、対策案の立案等を支援するコンサルティングサービスを提供しており、生物・生態系に関する深い知識を持つ職員が多く所属しています。そこで、これらの職員をNPO法人等の主催イベントに講師として派遣し、生物多様性に関する普及啓発に貢献しています。	環境教育活動 http://ideacon.jp/csr/social/education.html
7-2	目標1	オリンパス株式会社	オリンパスグループは全社員を対象とした環境意識の啓発活動の1つとして、「未来へ残したい自然の恵み」をテーマとした環境フォトコンテストを2011年より実施しています。世界の4つの地域(米州、欧州、アジア・オセアニア、日本)より約1000点に及ぶ応募があり、優秀作品の表彰およびオリンパスグループ内での展示を実施しています。	http://www.olympus.co.jp/jp/csr/involvement/management/education/2016.jsp
7-2	目標1	キヤノンマーケティングジャパン株式会社	ホームページで子供向け生物多様性コンテンツ「生物多様性ってなに？」を公開 「国連生物多様性の10年日本委員会」の提唱する「MY行動宣言5つのアクション」とも連動した内容で子供たちの生物多様性への取り組みを促進する内容となっている	http://cweb.canon.jp/ecology/tsunagaru/
7-2	目標1	サントリーホールディングス株式会社	貴重な水資源を未来に引き継ぐために、サントリー独自の次世代環境教育「水育」を事業として取り組んでいます。「サントリー天然水」のふるさとで開かれる自然体験プログラム「森と水の学校」には2004年開校以来約19,800名の親子が参加。小学校で先生方と一緒に「出張授業」には2014年までに約1,193校、約90,000名の児童に参加いただきました。	http://suntory.jp/mizui-iku/
7-2	目標1	ソニー(株)	ソニーでは、生物多様性を守るには、多くの人が自然を好きになることが大切という思いから「わお！わお！生物多様性プロジェクト」を推進しています。「わお！」という言葉は、自然の面白さや不思議に触れたときの感動を表したものです。この「わお！」な感動を多くの人に伝え、みんなで共有することで「わお！わお！」という大きなムーブメントに育て、生物多様性の保全につなげていきます。	https://www.sony.co.jp/SonyInfo/csr/eco/spotlight/waowao/
7-2	目標1	トヨタ自動車株式会社	・環境保全活動を「未来へつなぐ」ためには、「人づくり」が重要です。そのため「Toyota ESD Project」として、「地域に適したサステナブル人材育成を促進」する活動を進めています。	同上
7-2	目標1	ナブテスコ株式会社	朝日新聞環境プロジェクト「地球教室」への参画	https://www.nabtesco.com/library/annual_report/oir2015_12/fundamental/society/index.html
7-2	目標1	パナホーム株式会社	毎年、近隣小学校の児童を招き、理科や環境をテーマにした授業を『つながりのひろば』において実施。ミナメダカやカワバタモロコを題材に、生物多様性や地球環境問題、絶滅危惧種などについて学びます。	http://www.panahome.jp/company/environment/social/index.html#plaza 2016年環境報告書p6
7-2	目標1	パナホーム株式会社	一般募集で集まった小学生やその保護者を対象に、夏休みの自然観察会を実施。『つながりのひろば』において採集した生き物を観察し、オスとメスの見分け方の他、ビオトープの必要性や、人間のくらしと生き物のくらしのつながりなどについて学びます。	http://www.panahome.jp/company/environment/social/index.html#plaza 2016年環境報告書p6
7-2	目標1	プリマハム株式会社	子どもたちに「食の大切さ」「食の安全性」を理解してもらうために、小学校への当社オリジナル教材の提供と、当社の従業員による小学校への出前授業に取り組んでいる。	http://www.primaham.co.jp/assets/doc/company/report/2016/Report2016_all.pdf 社会・環境報告書2016 p37

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
7-2	目標1	リゾートトラスト株式会社	IUCN日本委員会と連携し2010年に日本で開催されたCOP10以降、生物多様性のロゴである『おりがみで折った生き物』に10年後の地球へのメッセージを書いて未来に届けるという活動を全国のリゾートホテルでお客様と共に継続実施(延べ1500名以上参加)。2016年にはIUCNが主催する「世界自然保護会議」に日本委員会より招待され、開催国であるハワイでも同イベントを実施(経団連二宮会長にもご参加いただきました)。11月に生物多様性大賞を受賞	http://www.resorttrust.co.jp/company/origami_action/index.html
7-2	目標1	株式会社サンゲツ	2013年7月当社では、フロアタイルで初めてカーボンフットプリントマークを取得しました。カーボンフットプリント(CFP)とは、経済産業省および関連省庁の推進する仕組みで、ライフサイクル全体で排出される温室効果ガスの排出量を換算し、マークなどを使って分かりやすく表示するものです。	http://www.sangetsu.co.jp/company/ir/library/pdf/sangetsu-report2016.pdf 「SANGETSU REPORT 2016」p27
7-2	目標1	株式会社セブン&アイ・ホールディングス	セブン-イレブン店頭に設置している募金箱に寄せられたお客様からの募金とセブン-イレブン・ジャパンからの寄付などで運営されているセブン-イレブン記念財団は、日本の貴重な自然や生態系の保護・保全について学ぶ「自然学校」を大分県の九重、東京都の高尾で運営しています。里山・里地の保全活動や森林整備・環境体験学習の場として、一般のお客様にご参加いただける多彩なプログラムを提供しています。	http://www.7andi.com/dbps_data/_template/_user/_SITE/_localhost/_res/csr/pdf/2016_all.pdf CSRレポートp54-55
7-2	目標1	株式会社島津製作所	社内の女性による環境活動チーム「え〜こクラブ」において、小学生以上を対象として、遊びながら生物多様性に関わる絶滅危惧種の現状について学ぶことのできるカードゲームを開発し、実際に近隣の小中学校などで出前授業を行っている。	http://www.shimadzu.co.jp/csr/eco/biodiversity.html http://5actions.jp/show/shimadzu-e-club/
7-2	目標1	株式会社日立国際電気	当社各事業所で、夏季節電運動の一環としてグリーンカーテン活動を実施し、地域保育園へのゴーヤ苗寄贈、園児へのゴーヤに関する環境教育、社内SNSによる社内情報共有を行った。	http://www.hitachi-kokusai.co.jp/csr/er/2016/er2016_014.pdf CSR報告書2016 p21
7-2	目標1	古河機械金属株	当社足尾事業所では定期的に地元の小中学校の生徒等を対象に同所の環境保全活動や足尾の歴史等についての勉強会を開催しています。2015年11月には当社鉱山施設の現地見学会を開催し、生徒からは当社がどのように環境保全に努めているか理解できた等の意見が出されました。	http://www.furukawak.co.jp/pdf/CSR/2016.pdf 参考資料: CSR報告書2016 P31
7-2	目標1	三井化学株式会社	田んぼには多くの生き物が生息していることを、多くの方に知ってもらいたい。農家や消費者の方々と生き物調査を体験しながら、これからの農業や食、環境について考える活動「田んぼの生き物調査」を実施。近隣小学校の子どもたちと田んぼに入り、多様な生物を観察するイベントも提供。農薬を製造・販売するだけでなく、農薬が及ぼす影響を調査して製品の改善や開発につなげ、環境保全と高品質な製品サービスの提供を行っている。	http://jp.mitsuichem.com/csr/rc/environment/biodiversity.htm CSR活動報告WEBサイト環境保全ページ
7-2	目標1	三井物産株式会社	未来の担い手である子供たちが持続可能(サステナブル)な未来を創る力を育むための「サス学(サステナビリティ学習)」アカデミーを2014年以降毎年開催。「サス学」という仕組みを通じ、世界中で展開する当社事業と社会貢献活動を新たな角度から取り上げる。2016年は「未来のくらしとこと」をテーマに、当社事業を教材として子供たちに伝えると共に、課題解決力、チームワーク、チャレンジ精神を育てる場を提供した。	(三井物産WEBサイト) 「サス学」アカデミー http://www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/education/sasugaku/index.html
7-2	目標1	三井物産株式会社	小中高生を対象に「出前授業」を実施。「森のめぐみと森の仕事」をテーマに、森林の役割や生物多様性の大切さ、日本の森林の現状や林業の仕事について紹介する意識啓発活動を継続。15年度は15校/1,100名に実施。又、「三井物産の森(社有林)」にて、林業や森林環境について学ぶ体験型プログラムを実施。15年度は13回/400名が参加。	(三井物産WEBサイト) 三井物産の森を通じた環境教育 http://www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/environment/forest/env_edu/index.html
7-2	目標1	三菱化学株式会社	生物多様性に貢献度の高い製品を選定し、HP等を利用して社内外へ広くアピールしている。また生物多様性貢献製品のさらなる改善や増加に努めている。 ・植物由来生分解プラスチック(BioPBS) ・有機薄膜型太陽電池	三菱ケミカルホールディングスグループ生物多様性貢献製品 http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/sustainability/activities/environment/biodiversity.html
7-2	目標1	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	「SAVE JAPAN プロジェクト」保険契約者がWeb約款を選択することにより、当社が環境NPOに寄付を行い、当該NPOと協働で、地域の希少生物種と触れ合う参加型の環境保全活動を開催。	http://savejapan-pj.net/
7-2	目標1	東急不動産ホールディングス株式会社	「緑をつなぐ」プロジェクトは、東急不動産ホールディングスグループがお客様と一緒に、森林を保全する取り組みです。マンション購入、オフィス利用、リゾート施設の利用といったお客様の様々なご利用に応じて全国の森をまもりまします。森林から産出された木材は事業で活用し、またお客様へ提供するという循環型サイクルを形成します。	http://tokyu-midori.com/
7-2	目標1	東京海上日動火災保険株式会社	環境啓発活動の一環として、「みどりの授業〜マングローブ物語〜」を実施。社員・代理店等がボランティアで講師となり、小学校・特別支援学校を訪問し、マングローブ植林と制服の再利用を題材に「地球温暖化防止・生物多様性」をテーマとした授業を行っている。2015年度までに、全国の小学校・特別支援学校で約730回実施し、約50,000名の児童・生徒の皆さんが本授業を受講した。	http://www.tokiomarinehd.com/sustainability/tHEME2/activity02.html
7-2	目標1	日本テクノ株式会社	自社作成による環境関連情報を3ヶ月に1回の定期配信を行なっています。配信時のタイミングで環境関連の最新情報を取りまとめ新聞形式にてDM配信をしています。その他法人企業の省エネの取り組み事例を掲載しています。	環境市場新聞
7-2	目標1	日本航空電子工業株式会社	定期新入社員や新任管理職研修など階層別の一般環境教育及びグループ会社を含む全社員を対象とした「省エネeラーニング」教育の中に生物多様性の定義やコンテンツを盛り込み啓発に努めています。同eラーニングでは家庭での省エネも呼びかけている。	http://www.jae.com/jp/env/2016/environmentaltrain.html 2016年環境報告/環境教育
7-2	目標1	富士通株式会社	環境出前授業: 全国の小中学校、高校で環境出前授業として、「地球1個分で暮らすために〜エコロジカル・フットプリントから考える〜」、ほか2講座を実施し、子どもたちの環境マインド育成を支援しています。	http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/activities/education/index.html

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
7-2	目標1	豊田合成株式会社	<環境教育の実施> 近隣の小学校を工場にお招きして、環境活動の重要性、LEDの効率の高さを体験、苗木づくりの体験など環境教育を実施しています。	http://www.toyoda-gosei.co.jp/csr/dl/豊田合成レポート2016 P45
7-2	目標1	豊田合成株式会社	<LEDメーカーとしての貢献> LED製品の普及を通じ、CO2排出量の低減に貢献しています。2011年から社内照明のLED化を進めています。2012年までに蛍光灯タイプ7万本のLED化を完了。2017年までに高天井照明をLED化する予定です。	http://www.toyoda-gosei.co.jp/csr/dl/豊田合成レポート2016 P33
7-2	目標10	日本電信電話株式会社	NTTからは、オンラインコミュニティサービス「部活DO!」の会員向けに「サンゴの移植体験ツアー」を企画、サンゴ移植体験のほか、海の生態系におけるサンゴの役割や保護の重要性などをお客さまと社員と一緒に楽しみながら学ぶ活動を実施。また、サンゴの現状や保護活動の4K映像コンテンツを自主制作し「ひかりTV」で配信、4Kならではの美しい沖縄の風景やサンゴ礁の映像を楽しみながら、その視聴料の一部をサンゴ保護団体に寄付を実施。	http://www.ntt.co.jp/csr/report.html サステナビリティレポート2016,P085
7-2	目標11	(株)小松製作所	「1拠点1テーマ活動」：各事業所での取り組み事例を示す。 ①周辺の自然を生かした取り組み：実用試験部、ホタルの里整備 ②ピオトープ整備と希少種の保護：コマツキャステックス、オオハス ③里山を活用した社会貢献：小山工場、コマツを福島復興支援 ④「いいね金沢環境活動賞」を金沢市から受賞：金沢工場、コマツ	http://www.komatsu.co.jp/CompanyInfo/csr/environment/2015/33.html 2015年環境報告書Web
7-2	目標12	株式会社 資生堂	与那国島の環境保全活動支援	http://www.shiseidogroup.jp/csr/env/diversity.html 「No.095 長命草の原料産地、与那国島の環境保全活動支援」
7-2	目標15	東京海上日動火災保険株式会社	2009年度より「お客様とともに環境保護活動を行うこと」をコンセプトに、「Green Gift」プロジェクトを通じて地球環境保護に取り組んでいる。具体的には、お客様に「ご契約のしおり(約款)」等を紙の冊子ではなく、ホームページ上で閲覧いただく「Web約款」等をご選択頂くことにより、紙資源の使用量を削減すると共に、紙資源使用量削減額の一部の寄付を通じて、マングローブ植林をはじめとした国内外の環境保護活動をサポートしている。	http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/greengift/about/
7-2	目標19	(株)東海理化	◆環境教育 環境に対する知識を深めてもらう為に植樹会と併せて環境学習を実施しました。クイズ大会や生物多様性に関するパネルを展示し、社員やその家族が環境について学べる場としています。	環境・社会報告書2016 p24
7-2	目標19	株式会社竹中工務店	名古屋 蝶の飛ぶまちプロジェクトの取り組み 蝶をシンボルとして人と自然が共生する豊かな環境創出を目指した活動です。街中に蝶の飛ぶ自然豊かな環境を目指し、名古屋市の中心市街地において、商店街や企業の協力を得ながら敷地等に蝶の誘導を狙いとした緑地を設け、点在する緑地同士をつなぐ都市生態系ネットワークづくりと、その調査・研究を行っている。当活動の専用ホームページを設置し、活動レポートや関連するセミナーの案内などを逐次公開している。	サステナビリティレポート2012(12頁) http://www.takenaka.co.jp/enviro/es_report/pdf/2012/all.pdf 名古屋 蝶の飛ぶまちプロジェクト http://nagoyabutterfly.com/ 「福井駅前に竹製の花壇を設置…蝶の飛ぶまちプロジェクト推進と里山の保全」 http://www.takenaka.co.jp/enviro/news/index.html
7-2	目標4	三井不動産株式会社	「&EARTH DAY」。当社グループビジョン「&EARTH」と「森を育てる大切さ」を伝えることを目的としたイベント。NPO法人やプロの音楽家・木工職人・ボランティアの学生などに協力をいただき、親子が一緒に楽しく学べる、間伐材で楽器を作成し演奏するワークショップ等のオリジナルイベントを開催。	http://www.mitsui-fudosan.co.jp/corporate/csr/2016/pdf/mf_csr2016_dg_05.pdf
7-2	目標7	株式会社三菱ケミカルホールディングス	科学的な根拠をもとに自社グループから生物多様性に貢献度の高い製品を選定、評価・アピール。製品の販売、使用による生物多様性保全への貢献。ステークホルダーとの協奏とイノベーションによる生物多様性の課題への新たなソリューション提供。	http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/sustainability/activities/environment/biodiversity.html 三菱ケミカルホールディングスHP:生物多様性保全貢献製品評価
7-2	目標7	(株)ニチレイ	当社グループでは、CSR活動の一環として、一般社団法人フォレストストック協会が発行する森林クレジットの購入を通じ、同協会が実施する森林保全活動を支援しています。お客さまにお買い上げいただいた冷凍食品や水産品の売り上げの一部で、日本国内の森が吸収するCO2クレジットを購入し、その代金が間伐や枝打ちなどの保全活動資金となり、森に還元されています。	http://www.nichireifresh.co.jp/fish/kodawari/oyster.html ニチレイフレッシュHP http://www.nichireifoods.co.jp/mori-good/support/index.html ニチレイフーズHP
	目標1	サラヤ株式会社	パーム油の90%以上が生産されているマレーシアとインドネシアの野生生物が絶滅危機にあることを持続可能な原料調達観点から、テレビやラジオに出演またはラジオ番組を通して、伝えている。また、消費者選抜やマスコミ関係者をボルネオのツアーに招待し、持続可能な消費の理解を促進している。	http://www.yashinomijp/environment/report/
	目標1	東京ガス株式会社	バリューチェーンの各段階でのリスク評価と対応の実施	2016年CSRレポートP.39
	目標1	富士重工業株式会社	富士重工業は、環境省が推進する環境マネジメントシステム「エコアクション21」*1を、企業価値向上に向けたマネジメントツールとして、当社の関連企業・お取引先(以下 スバルグループ)へ展開し、国内で初めて、「エコアクション21バリューチェーンモデル事業」を導入	
	目標12	太平洋セメント株式会社	埼玉県内の石灰石鉱山において、65種類の希少植物を地元の専門家の協力を得ながら保存・増殖。 また、中央研究所にて、チチブイワザクラ、ミヤマカスミユリなどの絶滅危惧種のバイオ技術による保存・増殖・自生固体の遺伝的多様性の検証に関する研究に取り組んでいる。	CSR REPORT 2016 p42
	目標2	富士重工業株式会社	2014年に全事業所を横断するワーキンググループを発足、現在も活動中。	

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
	目標3	富士重工業株式会社	中国の販売会社スバルオブチャイナは2012年末に、中国国家林業局傘下の中国野生動物保護協会と共同で「スバル森林生態保全プロジェクト」を発足、毎年100万円を寄付。また、2013年に「31の森 星の旅」という活動を展開し、中国内の31カ所の自然保護区に「スバル生態保護林」を育成しています。	
	目標4	サラヤ株式会社	メーカー出荷額の1%をボルネオ保全トラストの活動に使用することをボルネオ保全トラストのロゴとともに商品に記載。	http://family.saraya.com/borneo.html
	目標4	東京ガス株式会社	東京ガスのLNG基地(袖ヶ浦・根岸・扇島)では、従来から工場敷地の緑化に取り組み、「生物多様性保全の推進ガイドライン」を定めた2009年以降は、事業活動における生物多様性への影響を把握する目的で、環境NPOの協力を得て、生息する鳥類・昆虫・植生などのモニタリング調査を継続的に実施しています。調査で得られたデータを活用して、エリア内に草丈の異なる草地(ギャップ)を創出するなどの生物多様性に配慮した緑地整備を実践しています。	http://www.tokyo-gas.co.jp/csr/report_j/5_environment/symbiotic02.html
	目標4	富士重工業株式会社	販売会社・店では、環境負荷削減のため排出される廃棄物の適正処理・資源リサイクル活動を2012年4月から強化しています。再資源化を目的としてゼロエミッション活動及びエコアクション21を活用して、処理困難物の広域認定を取得、今後拡大予定。	
	目標5	サラヤ株式会社	ヤシノミ洗剤及びハッピーエレファントシリーズ商品の出荷額の1%で、マレーシアのサバ州キナバタンガン下流域の川沿いの土地を購入し、保護地にする「緑の回廊プロジェクト」を推進。	http://family.saraya.com/products/happyelephant/
	目標8	サラヤ株式会社	RSPO認証油と糖類を酵母による発酵で得られるバイオサーファクタントを洗剤の洗浄成分として、日本で初めて利用した。バイオサーファクタントはソホロリピッドとして原料販売もしている。生分解性と生物への安全性は、食品レベルである。	http://www.happyelephant.jp/soforo/
		サンデンホールディングス株式会社	国内では、サンデンが所有する森「サンデンフォレスト」を社員のボランティアで管理している。また、地域での活動として、群馬県統一美化キャンペーン、伊勢崎市環境フェスティバル等への参加、東京本社では台東区大江戸清掃隊に参加している。海外でも州、市と連携して清掃活動を行っている。	
		サンデンホールディングス株式会社	サンデンフォレスト・赤城事業所は「環境と産業の矛盾なき共存」を掲げ2002年に稼働した「森の中の工場」である。建設初期段階から環境に配慮し、C.W.ニコル氏ら多くの識者に指導頂き、民間初かつ最大規模の近自然工法により工場周辺の環境を整備、調整池をビオトープ化するなど自然環境に配慮した。また、自動販売機の生産ラインの工場見学と自然体験学習を組み合わせた小中学校環境教育の場としても活用している。	
		サンデンホールディングス株式会社	赤城自然塾、赤城クリーン・グリーンエコネットワーク、あかぎくらぶ、サンデン環境みらい財団と連携して、地域環境活動を実施している。	
		サンデンホールディングス株式会社	学校の環境教育として、群馬大学、早稲田大学に対して社員を派遣して環境教育を実施。また、地元市町村小・中学校の環境教育の場として、サンデンフォレスト・赤城事業所の見学を受け入れている(年間、約7,000名の児童・生徒)。環境教育等促進法に基づく「体験の機会」の場として前橋市より認定された。また、群馬県教育委員会より長期体験研修として教諭1名を受け入れ、環境教育のプログラムの作成・実施を行っている。	
		株式会社ツムラ	生薬の品質は日本薬局方、日本薬局方外生薬規格等の規格に適合しなければ漢方薬の原料生薬として使用することができません。そのためにも、外部形態的特徴・遺伝子鑑定技術に関する研究を行い、これらに基づいて正しい基原の薬用植物を用いて栽培研究を進めています。	
		株式会社ツムラ	生薬栽培の前段階では自生地の調査と種の同定を行います。絶滅危惧種を含む野生植物の調査・研究にかかわる国際的学術雑誌「植物研究雑誌」を刊行し2016年に100年を向かえ、漢方薬の基本となる薬用植物の遺伝子把握に長年取り組んできました。生薬の中には、野生植物の採取に依存しているものがあり、これらの遺伝子の多様性を保全し、持続的な利用を図ることが可能になります。	
		株式会社ツムラ	生薬栽培では、農薬使用に配慮しています。例えば、環境負荷の軽減のため、農薬の使用量が最低限になるように指導しており、近隣の生物への影響が懸念されるため、農薬が飛散しないように細心の注意を払うなど、その種類や使い方を規定し、環境に配慮した管理を行っています。	
		株式会社ヨロズ	ヨロズ栃木小山第一工業団地での生き物調査	環境レポート http://www.yorozu-corp.co.jp/share/uploads/2015/03/report14_2.pdf
		東亜合成株式会社	愛知県「企業の森」、徳島県「協働の森」、富山県高岡市「伏木ふれあいの森」での間伐活動	http://www.toagosei.co.jp/csr/csr_report/CSR報告書p30でのボランティア活動
		日本アビオニクス株式会社	外部コミュニケーション 社会貢献活動等	http://www.avio.co.jp/company/about/environment/pdf/kankyo2015.pdf
		菱電商事株式会社	生物多様性保全につながる社会貢献活動	http://www.ryoden.co.jp/csr/environment/sustainability/sustainability-report2013/P20_P21
			合計 453 活動	

本活動事例の内容は、回答企業による記述・表現をそのまま転記して、掲載しております。

以上